平成29年度(平成28年度実績)

教育委員会点検 · 評価報告書

平成29年12月 鳥羽市教育委員会

目 次

点検	及び評	価の)趣旨	Í			-	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
点検	及び評	価の)構原	戓			-	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
平成	28年	度実	€績言	泙佂	<u>.</u>	覧	及て	ド目	次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
1 4	教育委	員会	きの 流	舌重	力 -		-	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
教育	委員会	: の ::	動门	こ対	す	る	意見	見		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
2 ‡	教育委	員会	きが管	 雪理	₽•	執 [:]	行习	ナる	事	務	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
教育	委員会	が管	理	• 幇	丸行	す	る事	事 矜	引こ	対で	する	る意	틼	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
3 f	管理・	執行	ӯを教	敎育	長	に	委任	£す	-る	事	务	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
A É	学校教	育に	-関す	する	らこ	ځ	-	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
学校都	教育に	:関す	⁻ るこ	ع _	: I =	対 [·]	する	5意	見	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
В	生涯学	2習に	-関す	する	らこ	ځ	-	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36
生涯:	学習に	:関す	⁻ るこ	ع _	: I =	対	する	る意	見	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51
点検討	評価報	告書	全位	本に	三対	す	る意	意見	1 -		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	55

※中項目・小項目の頁はP3に記載

点検及び評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する方の知見を活用した点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされています。

そこで、教育委員会では、法の趣旨にのっとり、効率的かつ効果的な教育行政の推進を図るとともに、教育委員会の責任体制の明確化を図り、市民の方々への説明責任を果たすために、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価を行い、報告書として作成しました。

点検及び評価の構成

1) 項目

点検・評価は、「1教育委員会の活動」、「2教育委員会が管理・執行する事務」及び「3管理・執行を教育長に委任する事務」の3つの大項目を基本として必要に応じて細分化し、中項目、小項目合わせて32の項目に整理し、項目ごとに点検・評価を行いました。

2) 目標

目標は平成28年度鳥羽市教育目標を基に、大項目「1」と「2」については 大項目ごとに、「3」については「A学校教育に関すること」は中項目ごとに、 「B生涯学習に関すること」は小項目ごとに目標を掲げました。

3) 取り組みの概要

各項目の目標達成に向けて、平成28年度に実施した主な取り組みを示しています。

4) 評価

平成28年度の取り組みをふまえ、進捗状況や今後の課題等を項目ごとに評価をし、ランク付けを行いました。評価の判断基準は次のとおり。

評価	判 断 基 準
Α	目標を達成している
В	一定の成果はあるが取り組みを強化する必要がある
С	一定の成果はあるが改善の必要がある
D	成果がほとんど上がっておらず見直しの必要がある

5) 鳥羽市教育委員会委員名簿

平成28年4月1~

	氏 名	職業等
委員長	山下 隆広	会社役員
委 員	亀川 聖子	自営業
委 員	江崎 ユミ	児童保護者
委 員	岡村 忠夫	元中学校長
教育長	齋藤 陽二	元中学校長

平成28年10月1日~

	氏 名	職業等
教育長	齋藤 陽二	元中学校長
委員	山下 隆広	会社役員
委員	亀川 聖子	自営業
委員	江崎 ユミ	児童保護者
委員	岡村 忠夫	元中学校長

6) 外部からいただいたご意見

点検・評価結果に対して外部の方々のご意見を、大項目「1」と「2」については大項目ごとに、「3」については中項目ごとにまとめていただきました。 ご意見をいただいた方々は、次のとおり。

氏名(敬称略)	役 職 等
板井 正斉	皇学館大学准教授
木下 雅博	元小学校校長
橋本 朝美	小学生保護者

平成28年度実績 評価一覧及び目次

大項	目		中項目	小項目	評価	頁				
				① 開催状況		4				
1		(1)	教育委員会の会議		A					
教育委員	•	(2)	В	6						
安員	の活	(3)	Α	Ì						
会	動	(4)	(4) 教育委員の自己研鑽							
		(5)	Α	8						
		(1)	市教育行政の教育目	目標を定めること	Α					
2		(2)	学校その他の教育機	機関の設置、廃止及び変更に関すること	Α	İ				
教		(3)	教科書その他の教材	すの取り扱いに関すること	Α	10				
育		(4)	教職員の人事に関す	「る基本方針に関すること 「な基本方針に関すること	Α	13				
委員	執	(5)	事務局及び学校その	の他の教育機関の職員の任免その他人事	۸	İ				
会に	行		に関すること		Α	<u> </u>				
育委員会が管理	する事	(6)	6) 委員会の規則等の制定又は改廃に関すること							
理	事	(7)	1件1,000万円以上0	В	14					
<u>•</u>	務	(8)	地方教育行政の組織及	А	15					
			第27条第1項の規定による点検及び評価に関すること							
	Α	(1)	教育内容の充実	教育内容の充実						
	学 校	(2)	いじめ・暴力・不登	登校対策	В	23				
3	教	(3)	食育の推進と学校総	合食の充実	В	24				
管	育に開	(4)	特別支援教育の推進	É	В	25				
理・	関す	(5)	家庭や地域の教育力の	の再生・向上、また学校・家庭・地域の連携強化	В	26				
執	るこ	(6)	幼稚園の教育・サー	ビスの充実	В	27				
行を	٤	(7)	施設整備等、教育璒	景境の充実	В	28				
教	В			① 生涯学習の推進(公民館事業)	В	31				
教 育 長	生			② " (放課後子どもプラン)	В	33				
12	涯学	(1)	社会教育の推進	③ 青少年の健全活動を推進	В	34				
· 委 任	字習	(1)	社会教育の推進	④ 文化活動の振興、文化財の保護	В	35				
すっ	に			⑤ 図書館事業の推進	В	37				
する事務	関す			⑥ 人権教育の推進	В	40				
務	る	(2)	コポールはものササ	① 生涯スポーツの推進	В	41				
	٦	(2)	スポーツ活動の推進	② スポーツ施設の充実・管理	В	44				
		(3)	その他	-	В	45				

評価 判断基準

A ···· 目標を達成している

B ····· 一定の成果はあるが取り組みを強化する必要がある

C ····· 一定の成果はあるが改善の必要がある

D ····· 成果がほとんど上がっておらず見直しの必要がある

※実績のないもの及び評価が困難な項目については「一」とする

1 教育委員会の活動

[目標]

- ●開かれた教育行政の実現に努める。
- ●教育委員会、事務局、学校その他教育機関の連携を密にし、情報・意見交換 を積極的に行う。
- ●教育委員としての自覚を持ち、研修に努め、重要かつ基本的な事務処理を 適切に行う。

(1)教育委員会の会議

①開催状況 (開催数、議案件数、議案件名、主な協議件名)

	4 月	5 月	6 月	7月	8 月	9月	10 月	11 月	12月	1月	2 月	3 月	合計
定例会	1	1	1	1	1	0	1	1		1	1	1	11 回
(議案)	(3)	(8)	(1)	(1)	(2)	(0)	(0)	(7)		(4)	(4)	(13)	(43 件)
臨時会													0 回
(議案)													(0件)

		鳥羽市学校評議員の委嘱について
4月定例会	議案	鳥羽市心身障害児就学指導委員会委員の解委嘱について
(H28. 4. 28)	一	鳥羽市学校体育施設開放運営委員会委員及び管理指導員
		の委嘱について
		鳥羽市小中学校結核対策委員会委員の委嘱について
		鳥羽市いじめ問題対策連絡協議会委員の任命について
		鳥羽市学校評議員の委嘱について
		鳥羽市青少年サポートセンター所長及び主任の任命並び
5月定例会	=** -	に指導員の委嘱について
(H28. 5. 24)	議案	鳥羽市文化財調査委員の解委嘱について
		鳥羽市社会教育委員及び鳥羽市公民館運営審議会委員の
		解委嘱について
		鳥羽市公民館館長及び主事の解任命について
		鳥羽市放課後子ども総合プラン運営委員の委嘱について
6月定例会	举 安	自立士スポーツ世英章学会委员の紹素呢について
(H28. 6. 29)	議案	鳥羽市スポーツ推進審議会委員の解委嘱について
7月定例会	举 安	鳥羽市遠距離児童・生徒通学費補助金交付規則の一部改
(H28. 7. 27)	議案	正について
		鳥羽市立小中学校閉校記念事業費補助金交付要綱の制定
8月定例会	議案	について
(H28. 8. 29)	HIA 71	鳥羽市学校内科医の解委嘱について

9月定例会		
(H28. 9. 21)		教育長職務代理者の指名について
10 月定例会		
(H28. 10. 25)	議案	なし
		鳥羽市幼稚園の設置及び管理に関する条例の一部を改正
		する条例についての意見の申出について
		鳥羽市立かもめ幼稚園預かり保育条例の一部を改正する
		条例についての意見の申出について
		鳥羽市営プールの設置及び管理に関する条例を廃止する
 11 月定例会		条例についての意見の申出について
(H28. 11. 24)	議案	鳥羽市の重要な公の施設等に関する条例の一部を改正す
(1120. 11. 24)		る条例についての意見の申出について
		鳥羽市営水泳プールの設置及び管理に関する条例施行規
		則を廃止する規則について
		平成 29 年度教職員人事異動基本方針(案)について
		平成 28 年度(平成 28 年度実績)教育委員会点検・評価報
		告書について
		鳥羽市学校設置条例の一部を改正する条例についての意
		見の申出について
		鳥羽市コミュニティアリーナの設置及び管理に関する条
 1 月定例会	議案	例の一部を改正する条例についての意見の申出について
(H29. 1. 25)		鳥羽市中央公民館館長の解任命について
(1120: 1: 20)		指定管理者の指定についての意見の申出について(鳥羽
		大庄屋かどや)
	その他	海の博物館について
	()	離島留学について
		鳥羽市立小・中学校教職員育成支援のための人事評価制
 2 月定例会		度における苦情処理委員会設置要綱の制定について
(H29. 2. 23)	議案	鳥羽市立小・中学校徴収金等取扱要領の制定について
(1129. 2. 23)		平成 29 年度教職員人事異動(案)について
		財産の取得についての意見の申出について
		就学等に関する規則の一部を改正する規則について
		鳥羽市教育委員会公印規則の一部を改正する規則につい
		て
		鳥羽市教育振興基本計画の平成 28 年度評価について
3月定例会	議案	鳥羽市学校内科医の解委嘱について
(H29. 3. 28)	成 木	鳥羽市学校眼科医の解職について
		鳥羽市学校耳鼻科医の解嘱について
		鳥羽市学校歯科医の解委嘱について
		鳥羽市学校歯科医の解嘱について
		鳥羽市薬剤師の解嘱について

鳥羽市コミュニティアリーナの設置及び管理に関する条 例施行規則の一部を改正する規則について

鳥羽市社会教育指導員の解任命について

鳥羽市社会教育指導員の任命について

鳥羽市学校教育使用補装具購入費補助金交付要綱の制定について

【議決の状況】 (付議事項数:46件)	件数
教育に関する事務の管理及び執行の基本方針	3 件
教育委員会規則、規程等の制定・改廃	9 件
学校及びその他教育機関の設置及び廃止	0 件
教育委員会職員等の任免等	0 件
協議会・審議会委員等の任免・委嘱	22 件
教育委員会事務の点検・評価	1 件
議会提出議案に関する意見	8 件
教科用図書の採択	0 件
通学区域の設定・変更	0 件
文化財の市指定	0 件
その他	3 件

②運営上の工夫

〇教育委員の学校訪問など、現場視察活動を通じた教育全般への提案 や改善について意見・情報交換をするとともに、「教育委員会だより」 の発行、市ホームページにおける教育委員会会議録の公表、教育委員 会制度に関する記事の広報紙への掲載など、市民に対する積極的な情 報発信に努めた。

<u>評価</u>

Α

(2) 教育委員会と事務局との連携

〇議案審議が十分に行えるよう、事務局は資料収集や情報提供に努めるとともに、教育委員との連絡調整を密にし、教育委員会会議の進行の円滑化を図った。

評価

В

(3)教育委員会と関係機関との連携

〇民生委員との懇談会や連携した活動を通じ、教育環境の向上への取り組みを進めた。また関係機関との懇談などで得た情報を教育振興に生かせるように努めた。

評価

Α

(4)教育委員の自己研鑽

〇研修会への参加や時報「市町村教委」を定期購読し、教育行政の理解を深める とともに、積極的に各学校等の現場へ出向き、子どもたちとのふれあいや学校の 現状把握を行って、委員活動の充実に努めた。

また、定期的に委員で勉強会を開催し、委員間での意見交換や情報共有を通じて、自己研鑽に努めた。

(研修会、鳥羽市小中学校の発表会等は以下のとおり。)

開催日	内 容	場所
H28. 4. 12	教育委員会連絡協議会	
H28. 5. 13	桃取小学校統合説明会	桃取小学校
H28. 5. 30	長岡中学校統合説明会	長岡中学校
H28. 6. 17	コオーディネーショントレーニン	かもめ幼稚園・安楽島小学校
	グ見学	
H28. 7. 1	鳥羽市いじめ問題対策連絡協議会	保健福祉センターひだまり
H28. 8. 25	三重県市町教育委員会教育委員等	県総合文化センター
	研修会	
H28. 9. 9	ICT勉強会	鳥羽市教育委員会
H28. 10. 12	菅島小学校統合説明会	菅島コミュニティアリーナ
H28. 10. 18	平成28年度三重の教育談義	三重県文化会館中ホール
H28. 10. 28	鳥羽市教育委員会指定研究発表会	答志小学校
H28. 11. 8	鳥羽市小学校音楽祭	市民文化会館大ホール
H28. 11. 11	鳥羽市中学校音楽祭	市民文化会館大ホール
H28. 11. 21	鳥羽市いじめ問題対策連絡協議会	保健福祉センターひだまり
H28. 11. 25	総合教育会議	鳥羽市役所本庁舎
H28. 11. 29	市長・教育長・教育委員と語る会	鳥羽市商工会議所かもめホ
		ール
H28. 12. 19	菅島小学校統合説明会	菅島コミュニティアリーナ
H29. 1. 20	鳥羽市教育委員会指定研究発表会	加茂中学校
H29. 2. 11	里親説明会	保健福祉センターひだまり
H29. 2. 28	鳥羽市いじめ問題対策連絡協議会	保健福祉センターひだまり
年間	・学校訪問等 43件	各市内学校等
十旧	・勉強会 12件	公民館等

各学校等における行事、各種研修会及び研究発表会等に出席し、子 ども達とのふれあいや教職員との意見交換を通じて、教育現場の現状 把握に努め、教育振興への提案などにつなげるとともに、取り組むべ き課題について議論を深めることができた。

評価

Α

(5) 広報・情報公開

教育委員会の機関紙である教育委員会だよりの発行の他、市ホームページ、市 広報・行政放送などで教育委員会に関する活動の広報、情報発信を行った。

①教育委員会だよりによる情報発信を行った。

発刊月	内容
7月 (第8号)	・G7伊勢志摩サミット「記念植樹に菅島小児童3名」 ・コオーディネーショントレーニングの紹介 ・海の博物館での海洋教育について ・実践的防災総合支援事業について ・安楽島こども会「ぼうさい探検隊」の紹介 ・みえ子どもふるさとサミットで小中学生が活躍 ・文化財紹介「海女文化(御潜神事)」
11月 (第9号)	・旧鳥羽小学校で「komichi market」開催 ・平成28年度全国学力・学習状況調査結果 ・スクールカウンセラーについて ・人材育成講座「地球塾」の紹介 ・鳥武館・長岡柔道スポーツ少年団の紹介 ・菅島小学校の取り組み「読書の木」の紹介 ・文化財紹介「旧三田藩九鬼家の資料」
4月 (第10号)	・子どもフェスティバルの開催 ・神島小・中学校新校舎の紹介 ・美し国三重市町対抗駅伝大会結果について ・小学生の登下校の見守りをお願いします ・鳥羽市能楽保存会子ども狂言の紹介 ・文化財紹介「海女文化(鳥羽・志摩の海女漁の技術」 ・鏡浦小学校の取り組み「朝の学習」の紹介

②鳥羽市ホームページのトップページにおいて、告知を行った。

掲載日	所管課	内容
H28. 5. 9	生涯学習課	図録「九鬼嘉隆」頒布終了のお知らせ
H28. 8. 16	生涯学習課	講演会「旧鳥羽小学校の建築的な魅力について」 の開催について
H28. 9. 6	生涯学習課	第3回地球塾の開催について
H28. 10. 7	生涯学習課	三田九鬼家の歴史遺産展
H28. 11. 1	総 務 課	幼稚園の入園募集について
H28. 11. 22	生涯学習課	平成 29 年鳥羽市成人式について
H28. 11. 29	学校教育課	平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果につい て
H28. 12. 27	生涯学習課	かどや・伊良子清白の家等年末年始の休館日につ いて
H29. 1. 23	総 務 課	高等学校通学費補助金交付制度について

H29 2 2	0	「鳥羽・志摩の海女漁の技術」が国の重要無形民
П29. 2. 2	生涯学習課	俗文化財への指定の答申を受けました!
H29. 3. 3	生涯学習課	「鳥羽・志摩の海女漁の技術」が国の重要無形民
П29. 3. 3	土涯子百昧	俗文化財に指定されました!

③広報とばによる情報発信を行った。

掲載月	- よる旧報先信 担当課	内容・件数
10 40 / 1	生涯学習課	·平成28年度生涯学習講座受講者募集(4月募集)
4月1日号		・募 集 1件
	生涯学習課	・「地球塾」塾生募集
5月1日号	総務課	・お知らせ 1件
	学校教育課	・お知らせ 1件
6月1日号	かもめ	92 M 25 G 1 H
	幼稚園	・お知らせ 1件
	4) 作 图	+> fn > 1
7月1日号	生涯学習課	・お知らせ 1件
		· 募 集 1件
8月1日号	生涯学習課	・お知らせ 1件
9月1日号	生涯学習課	・お知らせ 1件
3		・募 集 1件
		·第58回鳥羽市民体育大会参加者募集
	生涯学習課	・鳥羽市民大運動会プログラム
		·第41回鳥羽市民文化祭
10月1日号		・TOBAウォーク2016in青峯山参加者募集
1071111 7		生涯学習講座受講者募集
		・お知らせ 1件
		・募 集 1件
	答志小学校	・お知らせ 1件
11月1日号	総 務 課	・平成29年度幼稚園児・預かり保育園児募集
117145	生涯学習課	・第41回市民文化祭音楽芸能発表会プログラム
12月1日号	生涯学習課	・お知らせ 1件
		・第20回「海の香りのする詩」の受賞作品
	生涯学習課	・平成28年度鳥羽市スポーツ優秀選手・優秀団
1月1日号 — 学		体表彰者
	学 	・お知らせ 2件
	学校教育課	・募 集 1件
	加茂中学校	・お知らせ 1件
	総務課	・お知らせ 1件
		・募 集 1件
2月1日号	化证券函 =	・第10回美し国三重市町対抗駅伝
	生涯学習課	・お知らせ 1件

3月1日号	生涯学習課	・市内の子どもスポーツ団体を紹介します
07105	学校教育課	・お知らせ 1件
連載	生涯学習課	・人権文化の花を咲かせよう(vol.147~156)
(上記以外)	土涯子自誅	・図書館だより

④行政放送による情報発信を行った。

放送日		所管課	タイトル
7月16日~7月31日	お知らせ	図書館	夏休み図書館行事のお知らせ
9月16日 ~9月30日	お知らせ	生涯学習課	市民大運動会にご参加ください
10月1日 ~10月15日	お知らせ	生涯学習課	市民体育大会が開催されます
10月16日 ~10月31日	お知らせ	生涯学習課	第41回鳥羽市民文化祭が開催され ます
11月1日 ~11月15日	特集とば	総務課	平成29年度幼稚園入園募集・預かり 保育の園児募集
2月1日~2月15日	お知らせ	総務課	平成28年度高校生通学費等補助制 度の案内
792 Д 10 Ц		生涯学習課	第 10 回美し国三重市町対抗駅伝
2月16日~2月28日	お知らせ	生涯学習課	第16回鳥羽市子どもフェスティバ ルが開催されます
3月1日 ~3月15日	お知らせ	生涯学習課	第10回美し国市町対抗駅伝大会鳥 羽市選手団へご声援ありがとうご ざいました

- ⑤情報公開請求に対する情報の公開を行った。
 - 行政情報の公開状況

件数	全部公開	部分公開	不受理
9	9	-	-

・個人情報の公開状況 公開請求無し。 ⑥「とばメール」などを活用し、各種事業のお知らせ、啓発活動を行った。

各種事業のお知らせや啓発活動について、市ホームページや広報とば、行政放送等により、広く情報発信を行うことができた。また「教育委員会だより」を3回発行し、市民、関係団体に教育委員会の活動を主体的に広報することができた。

評価 A

行政情報の公開請求のあった9件のほとんどが工事に関連する設計仕 様書の公開請求であった。

今後も引き続き、ホームページの充実や、「教育委員会だより」の 定期的な発行により、教育委員会の活動を市民にわかりやすく伝えて いきたい。

一委員A-

(4) 教育委員会の自己研鑽

・教育委員の自己研鑽については、教育委員会への出席はもちろん、各種行事への出席 ありがとうございます。個々の日程を調整しながらの出席だと思いますが、大変苦労 も多いと思います。今後もぜひ、各現場での生の姿を見ていただき、助言などをして もらえればいいと思います。

(5) 広報・情報公開

- ・教育委員会だよりについては、創刊当時に比べて紙面構成等大変読みやすくなった と思います。また、内容的にも単なる学校紹介ではなくて、掲載分野が多方面にわた っているのでよいと思います。
- ・教育委員会の広報活動は、学校教育・社会教育・生涯教育全般と多岐にわたりますが、広く鳥羽市民に知ってもらうために、今後も継続していただきたい。また、とばメールでの広報や啓発活動も市民に浸透してきているので、併せて活用していただきたい。

一委員B-

(4) 教育委員の自己研鑽

- ・研修会、市内小中学校の発表会等において、委員の参加状況(人数など)の掲載を希望。
- ・行事や研修会に出席した際、「取り組むべき課題について議論を深めた」とあるが、 どれくらいの時間を要したかなどの情報も要るのではないか。

(5) 広報・情報公開

- ・いろんな手段で情報発信されているので、努力されていると思う。とばメールでの通知は、直前の時期に届き効果的に思う。
- ・教育委員会だよりでも、偏りがなく様々なジャンルの情報が掲載されており、楽しく 読むことが出来る。

一委員 C -

(1) 教育委員会の会議

- ・教育委員会会議録の公表により、会議での議論の透明化が図られている点が評価できる。会議録によると、毎回、90分~150分で適切に議案の承認をはかっていただいている。また委員の出席率も極めて高く(約96%)、日程調整や議事運営の工夫を理解できる。引き続き十分な議論をはかっていただくとともに、委員への過度な負担とならないよう最適化に努めていただきたい。
- ・報告書は、議案一覧の掲載に努めていただいているが、議案のみの表記ではどうしても「任免・委嘱」に偏った印象を持つ(H26・17件、H27・23件、H28・28件)。会議録を読めばおおよその内容を理解できるが、会議でのその他の議案や、報告事項等での熱心な意見交換についても、要約など記録することで実質的な会議内容の報告を

目指すと総括的な点検・評価へつながるのではないだろうか。

・なお、公表されている教育委員会会議録を見ると、教育委員会は年単位での開催となっており、年度単位での報告書との整合性がとりにくい。ホームページ上は、第1回 (1月) からおおむね第11回 (11月) の順番で掲載されているのに対して、報告書では「4月定例会」から「3月定例会」となっている。学校事業が年度単位であることや事務手続き上に加えて、市民の閲覧しやすさに対しても、年度表記で統一してはどうだろうか。

(2) 教育委員会と事務局との連携

- ・平成 28 年度は、鳥羽市教育委員会において、新体制への移行年度となった。結果としてスムーズな移行が果たせた点は、教育委員会と事務局の連携成果を評価できる。 事務の高度化複雑化が進む中で事務局の仕事量は増加傾向にあると思われる。今後も 連携体制を維持向上できるよう指導主事をはじめ、職員体制の質量充実に配慮を願い たい。
- ・新体制では、教育長職務代理者を置き不測の事態に備えているが、会議録にもあるとおり、職務代理者が非常勤のため職務は総務課長に委任されている。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づいた適切な対応とはいえ、レイマンコントロールを尊重した運営が不測の事態でも維持できるよう留意いただきたい。

(3) 教育委員会と関係機関との連携

・制度改革もあり、教育委員会に求められる役割は多様化しているといえる。教育委員会の役割の見える化の意味からも、年間にどのような関係機関との連携を図っていただいているのか、具体的に整理集約されると理解しやすい。

(4) 教育委員会の自己研鑽

・報告書記載の学校訪問等と勉強会の年間回数は、学校訪問等が 59 (H26) →38 (H27) →43 (H28) 、勉強会が 21 (H26) →15 (H27) →12 (H28) と推移している。毎年計上する数値である以上、その増減について、理由を付していただけると理解が深まると思われる。

(5) 広報・情報公開

・教育委員会の役割の見える化を進める上で、広報・情報公開は大変重要と思われる。 しかしながら行政広報は、一般広報と比して、職員が必ずしも専門性(デザインや編集など)を有しないため、ともすると効果的な活用に課題を持つことが多い印象を持つ。鳥羽市におかれても「教育委員会だより」「HP」「広報とば」「行政放送」という民間広報ではありえない広範囲への配布手法を、より効果的に活用するためにも戦略が必要と考える。具体的には、発行発信結果の一覧だけでなく、それぞれの媒体に応じた対象の設定・限定や、部数の増減が適切かどうかを判断する効果測定の結果なども報告書に記載していただけると発信の効果を点検・評価しやすい。

2 教育委員会が管理・執行する事務

[目標]

- ●議案を研究・精査し、適切な処理に努める。
- (1)市教育行政の教育目標を定めること

〇平成27年度(平成28年3月)に、今後10年先を見据えた長期的な視点に立ち、 平成28年度から平成32年度までの5ヵ年を計画期間とする「鳥羽市教育振興基本 計画」を定めた。

教育振興基本計画において「自ら学び心豊かにたくましく生きようとする人間の育成」を目標に掲げ、「あふれる感性」「豊かな心」「意欲と活力」を持った子どもを育てることを目指します。

評価

Α

- (2) 学校その他の教育機関の設置、廃止及び変更に関すること
 - 〇平27年11月に策定した鳥羽市小中学校統合計画に基づき、鳥羽小学校と桃取小学校の統合を行い、桃取小学校を廃止するとともに、桃取小学校体育館をコミュニティアリーナとして社会体育施設に位置づける変更を行った。

評価

Α

- (3) 教科書その他の教材の取り扱いに関すること
 - 〇教科用図書の採択について、平成28年度は該当年ではなかったため、 取り組みは行わなかった。

評価

Α

なお、その他の教材及び教育備品については適正に取り扱いを行った。

(4) 教職員の人事に関する基本方針に関すること

〇三重県教育委員会並びに鳥羽市教育委員会人事異動基本方針に基づき、人事異動を行った。

評価

Α

(5) 事務局及び学校その他の教育機関の職員の任免その他人事に 関すること

評価

〇事務局及び学校その他教育機関の職員の任免その他人事に関し、社会 教育指導員の任命等について教育委員会に図り、協議を行った。

Α

- (6) 委員会の規則等の制定又は改廃に関すること
 - 〇規則等の制定及び改正を行った。
 - 規 則…●鳥羽市遠距離児童・生徒通学費補助金交付規則の一部改正
 - ●鳥羽市営水泳プールの設置及び管理に関する条例施行規則の廃止
 - ●就学等に関する規則の一部改正
 - ●鳥羽市教育委員会公印規則の一部改正
 - ●鳥羽市コミュニティアリーナの設置及び管理に関する条例施行 規則の一部改正

評価 A

- (7)1件1,000万円以上の工事の執行及び計画に関すること 【執行に関すること】(工事、設計業務委託のみ計上)
 - 〇神島小中学校建設事業

エ	事	名	•	委	託	名		金	額	
神島小中	学长	:	z a =л	ナ 車				契約額	515, 278,	四008
	一 作X	仪古	建政	工 尹	•			うちH28支出	435, 278,	800円
神島小中学校校舎建設に伴う敷地整備			整備		27, 972,	Ш ООО				
工事									21, 312,	00011

〇太陽光発電設備等設置工事

工 事 名 · 委 託 名	金額
答志中学校太陽光発電設備等設置工事	40, 979, 520円
長岡中学校太陽光発電設備等設置工事	44, 663, 400円

【計画に関すること】

〇平成29年度に行う予定の工事は下記のとおり。

エ 事 名(設計費含む)	予算額
神島小中学校建設事業	
・神島中学校解体工事	39, 224, 000 円

〇平成30年度以降の計画

年 度	対象
平成 30 年度~平成 31 年度	神島小中学校建設事業 ・神島小中学校屋外環境整備工事 (平成30年度)

神島小中学校建設事業では、平成29年2月に小学校と中学校が一体となった新校舎が完成した。塩害やメンテナンスを考慮した木造2階建ての校舎で、延べ床面積997.44㎡(1階515.18㎡、2階482.26㎡)、小学校が1階部分、中学校が2階部分を主に利用する。また、南海トラフの地震想定を受け、海抜21mの高台に建設し、さらに31mの避難場所へ通じる避難路の整備も行った。

平成29年度には旧中学校校舎の解体を行い、平成30年度には屋外環境の整備工事を予定する。

また、防災拠点となっている答志中学校及び長岡中学校へのLED 照明や蓄電池など、太陽光発電設備の設置を行い、災害発生時におけ る避難所施設としての機能強化を図った。 評価

В

- (8) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号) 第26条第1項の規定による点検及び評価に関すること
 - 〇平成28年度中に平成27年度実績の点検及び評価を実施した。

評価実施 平成28年 9月~11月 評価公表 平成28年12月 評価

Α

<mark>2 </mark>教育委員会が管理・執行する事務に対する意見

一委員A-

(7)1件1,000万円以上の工事の執行及び計画に関すること

・神島小・中学校の新校舎が完成しました。今後、旧中学校校舎の解体、そして、屋外環境の整備と進むようですが、いわゆるソフト面での充実も望まれます。教育現場の声をしっかり受け止めていただき、へき地小規模校での教育を前進させてもらいたいと思います。また、昨年度も記載させていただきましたが、洋式トイレの拡充(和式からの変更や増設)は近々の課題と思います。各教育現場の実情に沿って、一歩一歩確実に進めていただきたい。

一委員 C -

(1) 市教育行政の教育目標を定めること

・平成 27 年度に「鳥羽市教育振興基本計画」が策定されたことをもって「評価 A」としているのであれば、計画期間中は継続して「評価 A」なのだろうか。点検・評価項目として毎年度掲げるのであれば基本計画が PDCA サイクルに基づいて、推進状況についての点検・評価と考えるのが妥当ではないだろうか。基本計画に掲げられた「成果指標と目標値」の進捗については、教育委員会 3 月定例会で議案として検討されている。ここではその内容を含めた具体的な推進状況について記載していただけると、点検・評価の精度を高められる。

(2) 学校その他の教育機関の設置、廃止及び変更に関すること

・桃取小学校の廃止について、教育委員会定例会の会議録でもたびたび取り上げられており、当該児童保護者のみならず、幅広い市民の関心を集めたところと考える。会議録から伺う限り、教育委員会としての事務手続に不備等はなかったと考えるが、今後の統合計画を見据えると、進め方や理解を求める方法、個別のアフターフォローに至るまで、丁寧に振り返る必要はないだろうか。「評価 A」ではあるものの、廃止に至る経緯や多様な意見の取り扱いについて、結果に留まらない経緯の記録なども含めていま少し手厚く報告する必要はないだろうか。

3 管理・執行を教育長に委任する事務

A 学校教育に関すること

(1)教育内容の充実

「目標I]

自ら学び、考える力をもつ子どもの育成

- ●授業(保育)を工夫・改善し、基礎・基本の力の定着を図る。
- ●子どもの実態を把握し、個に応じた指導をすすめる。
- ●自ら課題を見つけ解決し、社会の変化に主体的に対応できる子ども の育成を図る。
- ●自らの将来や生き方を考えるキャリア教育をすすめる。

[取組の概要]

〇幼稚園・小中学校を訪問し、校内授業(保育)研究等研修会に参加し、各校・ 園において、指導方法、授業改善等について助言し、指導力の向上を図った。 指導主事要請訪問回数・・・のべ60回

〇基礎学力向上研究委員会を開催し、各校の学力向上に係る取り組みの交流を行った。県教育委員会主催の全国学力・学習状況調査(以下、全国学調)の採点研修に委員全員が参加し、早期分析及び課題の把握を目指した。また、研修リーダーとして効果的に校内研修会を推進するためのワークショップ方式の研修会を行った。年度末には県教委作成のワークシートの活用を促すための説明会とともに、志摩市と合同で「めあてと振り返りの充実に向けて」の研修会を開催した。

委員会開催回数・・・年3回(別に授業づくりの会1回)

〇2人の外国語指導助手(ALT)が、幼稚園・小中学校を巡回し、英語や外国語活動の授業を行った。児童生徒の英語を活用したコミュニケーション能力を高めることができた。

派遣回数・・・幼稚園8回、小学校285回、中学校201回・・のべ494回

〇鳥羽市教育委員会指定の研究会を行った。(指定校 答志小学校・加茂中学校)

〇各中学校において、職場体験等をとおしてキャリア教育を推進した。また、 各小学校においては、キャリア教育の視点を意識した授業に取り組んだ。修学 旅行において、職業体験施設「キッザニア」を訪れ、キャリア教育推進を図る 学校もあった。(加茂小・鳥羽小)

のべ60回(幼1回、小43回、中16回)の要請訪問があった。学校への取り組みとして、各校の目指す子どもの姿を基にして、授業力向上・家庭学習の定着等についての指導、助言等を行った。本年度よりできる限り二人体制での訪問

を増やし、小学校・中学校の視点から指導助言を行うこととした。そのため訪問 回数は昨年度より減少したが、新たに設置された南勢教育支援事務所の指導主事 による各校への学校訪問の支援を受けた。

本年度は2校の研究発表校において「国語科における単元を貫く言語活動」(答志小学校)、「道徳科における授業づくり」(加茂中学校)の研究が進められた。小学校はこれまで国語科において教科書の物語文を丹念に読んでいくことで読みを深める学習を進めてきた。そのため単元全体の見通しを持ち言語活動を意識して物語文を読み進めていく授業方法は大変興味深いものとして捉えられた。このことを受け、答志小学校における取り組みを各校の公開授業後や長期休業中の研修会の場において紹介することで、具体的な支援を多くの学校で行うことができた。

また、30年度に教科化される道徳科については、加茂中学校での研究における 授業の展開、発問、板書等の実践から得たものを学校教育課だよりで発信すると ともに、要請訪問の場において紹介することで学校間での共有を進めた。

基礎学力向上研究委員会を年3回開催し鳥羽市全体で同じ方向性を持って学力向上に取り組んだ。4月末に開催した第1回は県教育委員会が主催する全国学調の自校採点研修会と同時開催とした。自校採点によって8月末の結果報告を待たず、結果分析や課題の把握を行い、授業改善サイクルの推進を促した。6月には、新たに委員(各校の研修部長)となった者も数名いたことから情報交換や課題を出し合う場として第2回委員会を開催し、同時に県教育委員会研修企画・支援課による効果的な校内研修会の推進についてグループ別ワークショップ形式での研修会を行った。また、日々の授業の充実を目指し、三重大の守田庸一准教授による「小学校国語の問題づくり研修」を委員だけでなく鳥羽志摩から参加希望者を募って行った。

これまで経年で取り組んできた「めあて」と「振り返り」については、全国学調のアンケートの中で「行っている」を選択した学校が100%であり、全国のめあて(80%台)、振り返り(60~70%台)を大きく上回ることができた。

ALTについては、生の英語に触れ、言語活動を通したコミュニケーション能力を育成する上で、小学校での外国語活動の充実の大きな力となっている。今後、中学年での充実を図るためにも、一日の内で陸地から離島の学校へ移動せざるを得ない状況を少しでも改善する方策を考えていく必要がある。

また、教員のスキルアップのため、夏季休業中には志摩市と合同で研修会を開催した。皇學館大学の川村准教授を招き、コミュニケーション能力育成のための授業展開について体験を交えて学んでいただいた。今後は、教科化に向けた情報を発信するとともに、32年度の教科化、移行措置における学校体制の充実に向けて支援していく必要がある。

各中学校において職場体験学習等を地域の実態に応じて取り組み、各校の創意工夫を取り入れたキャリア教育の推進を図った。鳥羽小学校・加茂小学校における職業体験施設「キッザニア」での学びも定番となり、下級生も6年生での訪問を楽しみにしている。しかし他校においては、歴史学習において本物を見ることを重要視する所も多く広がりは見られない。各小学校においては、生活科、総合的な学習の時間等での自分や友達の親の仕事について知る学習がキャリア教育の一端を担っている。誇りを持って働く地域の人々と出会わせることで、自身の

<u>夢やキャリアについても考えさせることができた。今後は、小中学校の連携を図るとともに、優れた実践を学び合い、鳥羽市全体のキャリア教育充実を目指して</u>いく。

[目標Ⅱ]

豊かな心をもつ子どもの育成

- ●生命と環境を大切にする心を育てる。
- ●人権尊重の意識と実践力を養い、人権教育を推進する。
- ●家庭・地域と連携し、規範意識の育成を図る。
- ●文化・芸術に親しませ、豊かな感性や情操を育む。

[取組の概要]

〇人権教育を推進するために、鳥羽市人権教育推進委員会(年間2回開催)、人権フォーラム担当者会議(年間4回開催)を開催し、人権尊重の意識と実践力を養う活動を実施した。また、鳥羽市教育振興基本計画に則り、今日的課題である性的マイノリティの人権について、三重県教育委員会事務局等より講師を招き、教員の資質向上を図るとともに各校での学習活動が積極的に展開されるよう取り組んだ。

〇小学校・中学校それぞれ人権フォーラムを開催し、児童生徒が主体となって 作文発表や意見交換を行い、各校における人権教育の取り組みを交流した。ま た、フォーラム後、各校において還流を行った。

〇海の博物館、清掃センター等の見学・体験学習をとおして、生命と環境を大切にしようとする態度の育成を目指した。また海洋教育の取り組みを海洋教育フォーラム(東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター・日本財団主催)にて報告し、海洋教育の大切さについて交流した。

〇小中学校それぞれで音楽祭を開催し、各校での音楽活動の成果を発表し、学校間交流と児童生徒の音楽への関心を深めた。

人権教育推進委員会では、学級の一人ひとりが、自己を見つめ互いに語り合う中で、今までのつながりをより深め豊かにしていくことを目指し綴り方研修会を行った。その中で、自分自身のことを書く・話す価値、子どものくらしを知ることの大切さや具体的な事実を書くことの大切さなどを伝えることができた。また、今日的課題である性的マイノリティの人権についての研修会を開催し、学習を進めるにあたっての基礎的な事柄、学校における学習の必要性や学校でできることなどについての共通理解を図ることができた。

人権フォーラム担当者会議では、三重県教育委員会人権教育課等より講師を招き、人権フォーラムを充実していくためのコーディネーター研修を、模擬学習形式で行った。フォーラムにおけるコーディネート手法の中には、各学級の児童生徒をどのようにつないでいったらよいのかという視点が多数含まれていた。日常

の人権教育推進や学級づくり等にも応用できる大切な観点を学ぶことができた。 小学校・中学校人権フォーラムでは、選出された人権作文発表の後、コーディネーターが児童生徒の気持ちを重ね、つないでいくことにより議論を活性化させた。そのことにより、参加児童生徒より感想や自分の経験などから多くの発表があった。フォーラムで学んだことについては、各校において還流報告が行われている。自校において人権フォーラムを行なった学校もあった。今後も、児童生徒の人権意識の向上を目指し、交流の有意義な場であると捉えて、人権フォーラムに継続して取り組んでいく。

音楽祭は、各校での音楽活動成果発表の場となっているだけでなく、学校間交流の場にもなっている。芸術分野での交流は他にないので、今後も大切な機会として捉えていきたい。

海環境が身近な鳥羽市にとって、環境教育、海洋教育をとおして、生命と環境を大切にする態度を育成していくことはとても重要なことである。今後も様々な機関と連携し、環境教育、海洋教育の推進を目指していく。

「目標Ⅲ〕

健やかな心身をもつ子どもの育成

- ●家庭と連携し、基本的生活習慣の確立と食育の充実を図る。
- ●「こころ」「からだ」「いのち」を相互に関連させながら学ぶ教育 の充実を図る。
- ●運動を楽しむ意欲をもたせ、十分な運動量を確保する授業や活動 の充実を図る。

[取組の概要]

〇食育計画に基づき、食育担当者を中心に、栄養教諭、養護教諭等が保護者と連携を図り、子どもたちの家庭においての食生活やアレルギー疾患に関する個別相談・指導を行った。また、安心・安全で栄養バランスなど調和のとれた学校給食を提供し、児童・生徒の心身の健全な育成に寄与した。

食材について地元の生産者と連携を図りながら地産地消の推進に努めた。

〇昨年度に引き続き、県の事業を活用してすべての小中学校にスクールカウンセラーを配置した。また、小学校 3 校、中学校 1 校に心の教室相談員を配置し、児童・生徒・保護者・教職員に対してカウンセリングを行った。

〇全ての小学校・中学校において、新体カテストを実施した。児童・生徒の現在の体力の状況や運動習慣等の状況を把握し、各校において重点的に取り組む 課題を決め、年間を通して取り組みを進めた。

各校で食育年間計画を見直し子どもたちへの食育指導を行った。食育担当者会議(年間2回開催)では、栄養教諭と各校の担当者が一同に集まり、担任と栄養教諭との連携を強める手立てについて話し合いを行った。また、安心・安全な学

校給食の充実に努めた。地産地消については、今後も地元の生産者や関係機関と 調整を図り、推進していく。栄養教諭だけではなく、各校の食育担当者、教育委 員会担当者等で連携・協力して食育の推進を図っていく。

スクールカウンセラーについては、今年度もすべての小中学校に配置し、子どもだけでなく教職員や保護者の相談についても対応した。心の教室相談員については、多くの子どもの姿を見守る中で、相談活動や支援活動を行うことができた。

全小中学校において新体力テストを実施し、各校においては、児童生徒の状況 把握を行った後、運動能力向上を目指した取り組み目標を設定した。次年度以降 も、児童生徒の意識向上と、学校による実態把握、指導改善による児童生徒の体 力向上を図りたい。これまで国および県の抽出校に当たっていない場合でも、市 全体で継続実施しており、今後もぜひ継続した取り組みとしていきたいと考えて いる。

「目標Ⅳ〕

信頼される幼稚園・学校づくりの推進

- ●子どもたちの安全・安心の確保を図るために危機管理体制や施設 設備の充実を図る。
- ●地域の「ひと・もの・こと」を生かし、「ふるさと」を大切にする 教育活動を推進する。
- ●学校評価の充実を図り、開かれた園・学校づくりを進める。
- ●保・幼・小・中・高の連携をすすめ、鳥羽市の将来を担う人材の 育成を図る。

[取組の概要]

〇学校危機管理マニュアルの見直しを行い、教職員の危機管理意識の向上と危機管理体制の確立を図った。学校、保護者、地域、関係機関等と連携し、震災等の災害に対応する防災訓練を行った。また、市内中学校3校をモデル校に指定し、防災アドバイザーの三重大学川口淳准教授の指導のもと、「中学生の避難所運営への関わり」を意識し、防災・減災教育に取り組んだ。年度末には、モデル校の実践発表と川口准教授による防災講演会を行った。市内教職員・行政関係者46名の参加があり、市内各校に環流する良い機会となった。

〇各校において一刻も早く避難行動が取れるよう3小学校、2中学校で緊急地震速報受信システムを設置した。また、システムを活用して実際の緊急地震速報や物が壊れる音声等が聞こえる中で、緊張感あふれる避難訓練が実施できた。

〇宮城県気仙沼市の「防災ノート」を参考にして、「鳥羽市版防災・減災プラン集 明日へのつばさ」を作成し、各校へ配付した。

〇各校の実態に合った避難行動が取れるよう市内 1 園、6 小学校、3 中学校で緊急地震速報受信システムを活用し、実際の緊急地震速報や物が壊れる音声等が聞こえる中で、緊張感あふれる避難訓練が実施できた。

〇各学校において、校外学習や地域と連携した特色ある学校づくりの取り組みを行い、児童・生徒が「ふるさと」を大切にする心を育てる教育活動を進めることができた。特に安楽島小学校、鏡浦小学校におけるアサリ養殖への取り組みや、菅島小学校、神島小学校における「ガイドツアー」への取り組みは、地元の産業や自然に目を向けるだけではなく、地元の活性化を願う人々の思いや願いにも触れることができ、改めて「ふるさと」の大切さやすばらしさを発見することができる実践となった。

〇各学校へ学校評議員の配置を継続し、保護者や地域住民等による学校評価の推進に努め、学校運営の質的向上を図った。

防災・減災教育では、教職員対象の「防災・減災教育講演会」「実践交流会」「緊急地震速報受信システムを活用したより実践的な避難訓練の実施」「中学校での避難所運営ゲームを活用した学習」「防災・減災プラン集の作成」等を実施した。防災・減災教育の日常化を目指し「いつでも・どこでも・だれでも防災・減災学習を行う」ことができるようプラン集を作成した。今後プラン集の周知研修、実践報告を行う等、活用の推進を図る。

防災アドバイザー川口准教授による学校訪問において、校内の災害時における 危険物点検について多くの指摘があった。ここから鳥羽東中学校ではガラスケー スの撤去や天井からつり下げられているテレビ台の取り外しなど、大規模な職員 作業を行い、その工程について実践報告がなされた。生徒に対しては被災地にお ける中学生の写真を用いて具体的な活動とその成果について紹介していただく とともに、積極的に避難所運営ゲームの学習を行う様子から、「皆さんなら大き な力となる」という心強い言葉をかけていただいた。

来年度も継続して防災・減災教育の推進をめざし、全教職員を対象にした講演会や実践報告会を企画していくと共に、プラン集の周知研修や実践報告、防災・減災教育と親和性の高いESD教育に関する情報発信等、多様な防災・減災教育の展開を図っていく。

特色ある学校づくりについては、保護者・地域と連携し、さらなる推進を図った。 25年度より取り組みを進めている子ども支援ネットワークの活動をより充実させ、各中学校区と地域、各種団体との連携をより一層強化し、地域一体となり子どもたちを見守っていく体制づくりをさらに強化していく。

園・学校では児童・生徒、保護者、教職員による自己評価を実施し、教育活動の改善に生かしている。また、学期に1回学校評議員会を開催し、学校評価の充実を図った。今後も開かれた園・学校づくりをより一層推進していく。

評価

В

(2) いじめ・暴力・不登校対策

[目標]

● 教育支援センター(HARP)、学校、保護者等関係機関が連携を 密にし、問題の早期発見、早期対応に努め、問題解決に向けて 取り組みを行い、子どもたちの健全育成に努める。

[取組の概要]

〇教育支援センター(HARP)では不登校児童・生徒の学校復帰を支援するため、専任指導員2人により生活・学習など全般について指導を行った。通級生6名、電話相談のベ401名、面談相談のベ748名となった。

〇関係機関と連携を図り、各学校の問題解決、また、未然防止の取り組みを行った。

〇各校でいじめ防止基本方針を作成し、鳥羽市いじめ問題対策連絡協議会を開催 した。

〇いじめ、問題行動等に関する定期的な調査を行った。

<u>不登校の児童・生徒を対象に、今後もカウンセリング・教科指導等を行い、問</u>題解決に向けた取り組みに努めていく。

福祉部局との連携のもと、学校復帰に向けたケース会議を開催した。来年度も、 学校からの要請により、関係者を招集したケース会議を開催したい。

平成26年度、鳥羽市いじめ防止基本方針が策定され、各小中学校においても学校いじめ防止基本方針が策定された。いじめについては、各学校において、学期に1回程度のアンケート等でその実態把握に努めている。また、問題行動等については、毎月各学校に報告を求め、その解決について支援を行った。

評価 B

<u>鳥羽市いじめ問題対策連絡協議会を3回開催し、鳥羽市における</u>いじめ問題に関する情報交換を行った。

(3)食育の推進と学校給食の充実

[目標]

● 食育の推進

子どもの健全な食生活の実現と豊かな人間形成を図るため、魅力ある 食育の推進に努める。

● 学校給食の充実

地場産物を活用し、安全でおいしく、かつ栄養バランスのとれた学校 給食の提供に努める。

[取組の概要]

〇各校食育担当者を中心として、担任と栄養教諭、養護教諭が保護者と連携を図り、肥満やアレルギー疾患に関する個別相談や指導を行った。

〇安心・安全で栄養バランスなど調和のとれた学校給食を提供し、児童・生徒の 心身の健全な育成に努めた。

〇学校給食への地場産物の導入に関し、地元農家や関係機関の協力を得て地元の 農水産物を給食食材として使用し、食育指導の「生きた教材」として活用を図っ た。

〇給食調理員と栄養教諭を対象に、衛生管理講習会を開催し、安全で安心な学校 給食が提供できるよう資質の向上に努めた。

子どもたちが食に関する正しい知識と、望ましい食習慣を身につけることができるよう食育指導を行った。

学校給食における地産地消の取り組みについては、アカモク(菅島産)、オクラ(JA)、タイ(HOSUプロジェクト・観光課)、わかめ(答志島産)、ひじき(答志島産)、玉葱・じゃがいも(加茂産)、たこ、新米(加茂産)、アサリ(浦村産)、サメなどを調達して学校給食として提供した。今後も引き続き地元の農水産物の提供が受けられるよう、関係機関等との調整を図り実施していく。

また、5月26日、27日に開催された伊勢志摩サミットをきっかけに、各国の食文化に触れるため、4月からサミット当日までの8回、各国の料理を給食献立に取り入れた。

10月8日「鳥羽の日」の協賛イベントとして学校給食の特別献立「アカモクとりつくね汁」で、菅島の風の島加工場の協力を受け、市内全小中学校へ提供した。

評価

В

(4) 特別支援教育の推進

[目標]

● 障がいのある子どもや特別な支援を必要とする子どもの適切な就学と、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすことができるよう教育の充実に努める。

[取組の概要]

〇学校の担当者や保護者との情報交換や面談、教育相談を実施し、支援の方法や 就学、進学についてともに考え、助言を行った。

〇支援の必要な幼児児童生徒に対して巡回相談を行い、適切な指導・支援法について助言をした。

〇支援員の資質向上をめざし、研修会を行った。

〇途切れのない支援体制の構築をめざし、就学・進学時には、鳥羽市総合子ども相談「ほっぷ」との連携のもと、支援の必要な児童生徒の引継ぎ会を行った。また、授業(保育)公開を通して、各所属の職員が幼児児童生徒の実態把握に努めた。

巡回相談員派遣回数・・・のべ10回 関係機関を含めた引継ぎ回数・・10回

〇就学指導委員会を開催し、個別の教育的ニーズのある就学前幼児、小学校6年 生児童に対し専門家を含む様々な視点を持って就学先を判定した。

就学、進学については、保護者が悩んでいるケースが多い。今年度も引き続き、福祉部局との連携のもと、保護者を対象とした教育相談の充実を図った。 昨年度に引き続き、今年度も特別支援教育の推進を図った。すべての学校において専門性の高い巡回相談員、特別支援学校支援部教諭による巡回相談、及び校内委員会にて講義、助言等を行なっていただいた。また、各校に配置されている支援の必要な児童生徒と直接かかわる支援員を対象に研修会を開催し、その資質の向上を図った。

鳥羽市総合子ども相談「ほっぷ」では、各部局が連携して途切れのない支援体制の構築に力を注いだ。今年度も「ほっぷ」との連携のもと、関係者が集まり、丁寧な引継ぎ会を行なうなど、支援体制を強化し、「ほっぷカルテ」の活用も進めた。幼児児童生徒の実態把握についても、「ほっぷ」との連携のもとに行った。各校(園)への巡回相談についても、「ほっぷ」をはじめとする他機関との連携を大切に進めていきたい。

就学指導委員会は9名の委員で構成している。各校・園・所において児童・幼児が学習や生活する場に訪問し、担任等の聞き取りを行い個別の教育的ニーズの把握に努めている。その際、専門家の意見を参考にし、様々な観点から総合的に捉えられるようにしている。その上で最も的確にニーズに応え十分な教

育を受けられる場はどこか検討し、就学先について判定を行った。

市内小中学校間、関係機関との情報交換などを推進し、特別支援教育の推進 を図るため、教職員のさらなる資質向上と啓発に努めたい。

評価

В

(5) 家庭や地域の教育力の再生・向上、また学校・家庭・地域の連携強化

[目標]

● 家庭や地域の教育力の再生・向上を社会全体の問題ととらえ、家庭や地域が積極的にその役割を果たせるような支援体制づくりに努め、 学校・家庭・地域が連携・協力して、地域全体の教育力を高めること ができるよう、環境づくりや支援に努める。

[取組の概要]

- 〇家庭や地域、学校における教育力の向上をめざし、「学びの基本」「家庭学習の手引き」を作成し周知を図った。
- 〇各学校において、校外学習や地域と連携した学校づくりの取り組<u>み</u>を行い、体験を通して特色ある学校づくりを推進した。
- 〇開かれた学校づくりにおいて、各学校より各家庭および地域へ「学校だより」 の配布等により、情報発信を行った。
- 〇全ての学校・園で学校評議員会を学期1回実施し、地域との連携強化を図った。

「学びの基本」「家庭学習の手引き」の2つの資料は、鳥羽市全ての学校・家庭が、児童生徒の学びを支援していくために必要となる観点を示したものである。全国学調でのアンケートでは小学生の60%が自分で計画を立てて勉強していると回答している。「家庭学習の手引き」については、学校の実態に合わせたアレンジを行って配付している学校もある。親子共々「学び」に向かい合うことができる資料として活用されている。

特色ある学校づくりを行うことで、児童・生徒の活力を引き出し、学校・地域との連携を強化することにより、開かれた学校づくりに取り組んだ。各中学校区で取り組みを進めている子ども支援ネットワーク等の組織を活用し、さらなる連携強化に努めていく。また、保護者・地域の人材の学校運営への参画を図るため、広報・啓発活動等に取り組んでいく。

開かれた学校づくりにおいては、各学校から家庭・地域に「学校だより」が 発信され、各校の取り組みを広く周知することができた。開かれた学校の土台 づくりをより強化していくためには、各学校がそれぞれの特色を活かし、また、 他校の実践から多くのことを学び合うことが大切である。また、学校評議員 会を継続して実施し、園・学校への意見や要望を聞くようにしていく。

評価

В

(6)幼稚園の教育・サービスの充実

[目標]

- ●豊かなこころの育ちをめざして
 - 幼児が進んで遊ぶための教師のかかわりと環境設定を考えるー
- ●保護者の就労・子育て支援のため、預かり保育等の実施に努める。

[取組の概要]

- 〇自ら進んで遊び学ぶ幼児の育成のため、保育室に多様な経験ができるままごと・絵本・製作・粘土などのコーナーを設けた。
- 〇一人ひとりの思いを受け止めることを心がけつつ、友だち同士のかかわりが十分できるような物的、人的な環境設定に努めた。
- 〇豊かなこころをもつ幼児の育成のために、絵本の部屋の整備をし、絵本や紙芝居を毎日読み聞かせ、週1回貸し出しを行った。
- 〇たくましく生きようとする幼児の育成のため、戸外で思い切り体を動かすことができるように、年間を通して半そで・半ズボンの薄着を奨励し、自然の中でしっかり遊ぶことを目的に、四季を通じて園バスも利用して園外保育の時間を多くとるようにした。
- 〇園庭で一年を通して様々な野菜を栽培したり、調理したり、皆で食べる体験を 大切にした。
- 〇特別支援教育充実のため、あすなろ巡回相談による個別の指導計画などの保育の研修を行ったり、アドバイザーによる園内療育も行ったりした。
- 〇未就園児の保護者を対象に、毎週2回月水曜日の午前中、園庭と絵本の部屋の 開放を行った。(年間70回、延べ約親子50組)
- 〇園での子どもの育ちの状況を知らせるために、1学期・2学期に個別懇談やクラス懇談を実施し、3学期にクラス懇談や個別の育ちの状況を書面で配付するなどした。

〇園だより(年間40回)、クラスだより(年間25回)を発行し、幼稚園の情報を発信した。また、園だよりは大明西町の町内にも回覧した。

〇預かり保育を、年間217日実施した。(平成20年度開始) (利用延べ人数:1,647人、1日平均利用者数:8名)

〇子育て支援のため、子育てに迷い、不安を抱いている保護者(園外を含む)の 相談を聴く機会を設け、子育ての参考となる講演会を開催した。

〇平成27年年度から幼稚園給食を導入し、保護者負担の軽減を図るとともに、給食を通して、子どもたちには食の大切さに気付いてもらえるよう取り組んだ。

"豊かなこころの育ちをめざして一幼児が進んで遊ぶための教師のかかわりと環境設定を考える一"ことについては、幼児が自ら選ぶ経験や活動の中で、一人ひとりの発達に合わせた教育を行っているが、職員の人事異動などにより、常に共通理解のための研修に努めていかなければならないと感じている。また、特別支援など新たな視点で子どもと保護者、両方を援助していく必要性も増してきている。

食育の推進と子育て支援の観点から学校給食を実施している。好き嫌いせずに しっかり食べる幼児の姿が増えてきている。また、保護者からも負担が軽くなっ たと喜んでもらっている。

預かり保育については、就労する保護者の増加で希望者が増加してきている。 入園当初の3歳児の預かりや特別に支援のいる幼児に対する関わりなど、職員 一人の対応では大変な場合が多く、複数の職員で関わるなど工夫をしている。

評価

В

(7) 施設整備等、教育環境の充実

[目標]

- ●施設・設備の適正な管理と防災・防犯対策の徹底を図り、児童・ 生徒・教職員の安全確保を図る危機管理体制の確立に努める。
- ●遠距離通園児、通学児童・生徒の安全・利便性の向上に努める。

[取組の概要]

- 〇答志小学校における外壁補修や屋上防水、加茂小学校の壁面補修、安楽島小学校のネットフェンス補修など、老朽化した小学校施設や設備の改修工事等を実施 した。
- 〇長岡中学校保健室へのシャワー設置、鳥羽東中学校の放送設備改修、答志中学 校体育館のカーテン取替えなど、中学校施設や設備の改修や維持補修を行った。

- 〇その他、小学校で68件、中学校で39件、幼稚園で2件の修繕を行い、管理施設や設備の維持管理等により、児童・生徒らの安全確保と教育環境の充実を図った。
- 〇鳥羽小学校と桃取小学校の統合に伴い、平成29年度からの通学に必要となるスクールバスを鳥羽小学校に導入し、通学条件の整備を図った。
- 〇防災拠点となっている答志中学校、長岡中学校にLED照明や蓄電池など太陽 光発電設備を設置し、避難所施設としての機能強化を図った。

神島小中学校新校舎の完成により、市内すべての小・中学校・幼稚園施設の耐震化が完了したところである。引き続き、経年劣化する各施設の維持管理を充実させると共に、国庫補助金等を活用した非構造部材の耐震化等、災害に備えた学校施設の安全対策や施設の長寿命化を図るための大規模改修などを計画していく必要がある。

評価

В

3 管理・執行を教育長に委任する事務に対する意見

A 学校教育に関すること

一委員A-

(1) 教育内容の充実--目標 I

・昨年度取り上げた、小学校での外国語活動の充実については、どのような手立て、あるいはサポート体制が講じられているのかを明確にしていただきたい。

(1) 教育内容の充実─目標Ⅳ

・防災・減災教育について、この数年間での大震災を経て、最近よく耳にする言葉に「防災・減災の現場における男女共同参画の視点」があります。避難生活や復興における 多様性への配慮もいわれています。これからの教育現場での実践活動の中でも留意していただきたい視点だと考えます。今後の展開に期待したいと思います。

(3) 食育の推進と学校給食の充実

・食育について、学校給食については、何か事が起きると、マスメディアは一部を切り 取った形で情報を流すので、一般市民に対してマイナスイメージを作り上げてしまう 風潮がある。しかし、鳥羽市が積み上げてきた地場産物を導入し、地元とのつながり を大切にしてきていることはかなり評価できるので、今後も食育指導の「生きた教材」 として、活用を展開していただきたい。

一委員B-

(1) 教育内容の充実―目標 I

- ・基礎学力向上委員会の開催において、全国学力・学習状況調査の採点研修や、「めあてと振り返りの充実に向けて」など、研修に力を注いでおり、着実に成果も得られている状況になっていると思われることから、来年度からも継続し、かつ、委員会の内容充実にがんばっていただきたいと思う。
- ・ALTについて、将来的には国際社会で活躍できるよう、幼稚園や小学校低学年から もっと生の英語に触れさせられるよう、回数が増えることが望ましく思う。人件費の 都合等もあるかと思うが、継続を維持できる頻度での活動を期待したい。
- ・職場体験学習においては、地域の実態に応じた、各校での創意工夫を取り入れた教育 の推進ということで、その地域をより深く知り理解できる場としても、鳥羽の未来を 担う子どもたちにとって良い経験になっていると思うので、今後も続けて欲しいと思 う。小学校においても、2校だけが『キッザニア』での職業体験があったり、『家の 人の仕事調べ』において、いろんな仕事があることを知ったりと、教科書だけでは伝 わらない、いい経験をしていると思う。学力に繋がっているかどうかが不鮮明ではあ るが、将来の夢や希望へのきっかけにはなっていると思う。

(1) 教育内容の充実―目標Ⅱ

・人権教育に関して、専門的な分野の教育は必要だと思う。子どもにとっては難しかったり、とても深みのある教育だと思うので、多人数ではなく、クラス毎等で丁寧な対応で進めていただきたいと思う。

相手の立場になって考えることや、周囲の人に優しく接することなど、普段からそういった教育の充実を推進していただきたい。3月に鳥羽小にて人権学習(公開授業)があり参観しました。学年に合わせての授業でテーマもしぼってあり、子どもたちにもとてもわかりやすいものだった。3年生と5年生で時間もずらしてくださったので、両方1限を通して参観できました。子どもたちの考えを身近で聞ける良い機会でしたので、またこのような授業を進めて欲しいと思う。

・音楽祭について、音楽の表現によって他校の特色が様々で、子どもたちにとって良い 刺激となっていたり、交流の場としても素晴らしい会であると思う。小学校において は9校中3校だけが1学年だけしか参加できず、6年間のうち1回だけというのが残 念に思われるため、音楽祭に限定せず、2~3校ずつでも交流会などが設けられるの も良いかと思う。

(1)教育内容の充実─目標Ⅲ

- ・給食について、安心・安全で栄養バランスのとれた給食の提供を維持できていることが、保護者にとって何よりありがたいと思う。 アレルギー疾患の個別相談・指導なども行なっており、繊細な対応が必要となるが、 今後も『慣れ』に留意し継続していただきたい。
- ・スクールカウンセラーについて、どのくらいの利用数があるのか、数値化して欲しい。 相談内容は深刻なことから些細なことまで、様々なことに対応しているとは思うが、 実際利用したくてもためらいが出たりするのではないか…等、もっと身近に感じられ るような広がりを求めたい。

(1) 教育内容の充実─目標IV

・災害時の防災・減災の教育を推進できているところが良い。ただ、『災害に遭った後のこと』については、未修得のように思う。災害があった想定をして、保護者が学校へ子どもを引き取りに行く訓練を実施している学校があるそうですが、市内全校が実施されておらず、危機管理体制が整っているように感じられない。

『中学生の避難所運営への関わり』の教育に取り組んでいることは良いと思う。

(2) いじめ・暴力・不登校対策

・いじめについて、各学校において学期に1回程度のアンケート等で実態把握に努めているのは良い。問題解決も大事だが、子どもの居場所つくりも重要視して、今後も連携を強化していって欲しい。

(4)特別支援教育の推進

・総合子ども相談『ほっぷ』において、各部局が連携して途切れのない支援体制の構築に力を注いだとある。途切れのない支援が出来ている体制を今後も継続して欲しい。

(5) 家庭や地域の教育力の再生・向上、また学校・家庭・地域の連携強化

・地域の連携強化について、学校評議員は各学校の規模に合わせた配備になっているのか?学校によっては校区が広範囲に及んでいるところもあり、各地域の意見などが届いているのか、疑問に思うところである。

(6) 幼稚園の教育・サービスの充実

毎日の絵本や紙芝居の読み聞かせは、幼児教育時において有効だと思う。幼少期から本に慣れ親しんでいることは良いと思うので、今後も継続して欲しい。

一委員 C -

(1)教育内容の充実―目標 I

- ・指導主事要請訪問は、80 (H26) →70 (H27) →60 (H28) と毎年 10 回ずつ減少している。二人体制の運用や、南勢教育支援事務所などとの連携を活用し、効果的に進められた結果と推察するが、それであれば経年分析の上、目安となる適正回数も示していただけると理解しやすい。
- ・「めあて」「振り返り」の実施校が、全国平均を上回っている点は、これまでの取り 組み成果として評価できる。ひきつづき研修会等を通じて継続実施に期待したい。
- ・ALTの派遣回数は、388 (H26) →381 (H27) →494 (H28) と飛躍的に伸びている。 教育現場や保護者のニーズが高まっていると思われる。2名体制での効果的効率的な 派遣を調整されたい。報告書では、陸地から離島の学校への移動課題が指摘されてい る。教育委員会会議録でも離島での英語検定について質疑が見られたが、他教科と比 して専門性の求められる科目でもあることから、教育環境の平準化の観点からも早急 な課題解消と増大するニーズへの対応に努められたい。
- ・キャリア教育の推進は、修学旅行時の職業体験施設での学びが児童に好評であるとともに、他校においても、各単元を活用し、身近な職業を知る学習が展開されている。地元就職者の増加は行政においても喫緊の課題であり、地元就職意識は、低学年であればあるほど効果が高いという推計もある(皇學館大学 COC「伊勢志摩みらいづくり調査(予備調査)」)。農水商工課との連携も含めたキャリア教育の充実を期待したい。

(1)教育内容の充実─目標Ⅱ

・新たに性的マイノリティの人権についての研修会開催は、今日的課題への時機を得た 対応として評価できる。

(1) 教育内容の充実―目標Ⅲ

・スクールカウンセラーと、心の教室相談員の配置については、教育目標達成へ向けた 重要かつ継続実績のある取り組みと思われることから、相談件数や相談項目の動向な ど、配置に伴う実績および効果の報告を求めたい。 ・新体力テストについても同様に、実施事実の記載に留めず、結果の動向を確認できる と全校実施の意義も理解しやすいと思われる。

(1)教育内容の充実─目標Ⅳ

- ・市内モデル校を対象とした防災・減災教育は、鳥羽市の小中学校をとりまく地理的状況から考えても極めて重要な取り組みと思われる。学校危機管理マニュアルの見直しや防災アドバイザーの学校訪問など継続した取り組みを評価したい。報告書には、防災アドバイザーの具体的な指摘について、鳥羽東中学校での大規模な対応も記載されており現場意識の高さもうかがえる。その一方で、教育委員会会議録によると「非常用持出リュック」を予算計上したものの、予算化にまで至らなかった経緯を確認できる。予算計上の根拠が目標IVに基づく事業結果から得られた知見をもとに立案されたのであれば、現状のみならず課題を整理して本報告書などへ特記することで、PDCAを連動させた予算化につなげられなかったのであろうか。
- ・学校評議員の取り組みについては、学校運営協議会などの全国的な動向とともに、市 内小中学校の統廃合も含めながら、鳥羽市における将来的な方向性を検討していただ きたい。そのためにも、継続実施されている自己評価などの分析を可能な限り公表す ることで、幅広い関心を寄せられるのではないか。

(2) いじめ・暴力・不登校対策

- ・通級生 7 (H26) →6 (H27) →6 (H28)。
 電話相談 372 (H26) →392 (H27) →401 (H28)。
 訪問相談 (H27より「面談相談」) 96 (H26) →690 (H27) →748 (H28)。
 電話相談、面談相談ともに、増加傾向にある。増加要因の分析は必要ないか。
- ・福祉部局との連携は、極めて重要と思われることから、より一層の緊密な連携を求め たい。ケースについては、保護者の生活困窮なども環境因子として子どもの不登校等 に影響していることも推測できる。また、啓発としては、社会福祉協議会が地域福祉 活動計画などに基づいて進めている「福祉教育」などのプログラムと連携も積極的に 取り組まれたい。
- ・平成 26 年度に「鳥羽市いじめ防止基本方針」が策定されて以降、報告書記載の相談 件数は増加傾向にある。方針と相談件数増加との関係についても説明があると理解を 深めやすい。

(3) 食育の推進と学校教育の充実

・例年、地場産物の導入も積極的で、地元の魅力について食を通じて学ぶよい機会になっていると思われる。一次産業事業者との連携は、キャリア教育の観点からも展開が可能ではないだろうか。

(4) 特別支援教育の推進

- ・巡回相談員派遣回数 32 (H26) →29 (H27) →10 (H28)。 関係機関を含めた引継ぎ回数 12 (H26) →6 (H27) →10 (H28)。 報告書では「就学、進学については、保護者が悩んでいるケースが多い」と指摘されているが、巡回相談員派遣回数は、減少傾向にある。要因の分析は記載があると理解しやすい。
- ・福祉部局や鳥羽市総合子ども相談「ほっぷ」との連携が当該児童生徒を中心に丁寧に 行われている点は評価できる。
- ・就学進学への保護者の相談ニーズについて、その傾向などを分類できているのであれば報告書へも記載いただけると現状と課題を理解しやすい。引継ぎ会や「ほっぷカルテ」の活用による効果(満足度)測定についても事業の必要性について認識を深められると思われる。

(5) 家庭や地域の教育力の再生・向上、また学校・家庭・地域の連携強化

- ・「学びの基本」「家庭学習の手引き」の作成周知と、全国学調のアンケート結果(鳥羽市内の結果?)との整合性について、手引き配布後の家庭教育への影響事例を添えるなど、もう少し説明をいただけると理解が深まると考える。
- ・「学校だより」は家庭や地域が学校の様子を知る貴重な手段と思われる。各学校から 作成発信されている点は評価できる。報告書で指摘のある「他校の実践から多くのこ とを学びあう」ためにも、「学校だより」を比較一覧して見る機会などができると良 いかもしれない。
- ・平成 29 年 3 月にまとめられた『みえ家庭教育応援プラン』との連動なども期待したい。なお、同プランには、「スマートフォン等の利用の「三つの約束」」として鳥羽市の事例が紹介されている。県内の先行取り組みとして評価されている成果であり、教育委員会定例会会議録でも、関連する質疑が複数回うかがえたことからも本報告書への積極的記載を求めたい。

(6) 幼稚園の教育・サービスの充実

・預かり保育について、実施日は、216 (H26) \rightarrow 213 (H27) \rightarrow 217 (H28)。 利用延べ人数は、1,045 (H26) \rightarrow 1,602 (H27) \rightarrow 1,647 (H28)。

1 日平均利用者数 4 (H26) →8 (H27) →8 (H28)。

報告書では、H27年度に引き続き「就労する保護者の増加で希望者が増加してきている。」とある。市民ニーズの増加を継続して認めている以上、これまでの保育の質を落とすことなくサービスを提供することに注力していただきたい。

B 生涯学習に関すること

- (1) 社会教育の推進
 - ① 生涯学習の推進(公民館事業)

[目標]

● 公民館等を活動拠点に、生涯にわたり「いつでも・どこでも・だれでも」 学ぶことができる機会を作り、市民一人ひとりが仲間と楽しく学びながら 生きがいを持ち、いきいきと充実した生活をおくる社会を創る。

[取組の概要]

【生涯学習事業】

〇生涯学習講座 (講座数:29講座/のべ参加人数:1,638人)

生涯学習講座では、前年度講評であった地元企業と鳥羽高校が連携した特別講座「鳥羽国際ホテルのシェフに学ぶ家庭でできるフランス料理」を開催した(会場:鳥羽高校調理室)。講師として、西尾洋食料理長をお招きし、鳥羽高校生徒や市民の方に対して、実演と交流を行いながら指導をいただいた。また、出張出前講座では桃取地区と答志地区、船津地区で講座を開催し、3地区で41名の方が参加した。出張講座では各地区に希望講座を確認し、「カルトナージュ」や「スマイル体操」「かごバッグ」など地域の希望に合った講座の開催を行った。

前年度特別講座として人気であった「スマイル体操」や「ピラティス」などを 定期講座として企画し、多くの受講者申し込みがあった。また、新しい講座とし て「長尾オルガンで歌いましょう」「クリスマスリース」「たのしいおやつ」「初 めての消しゴムはんこ」など、音楽から工作、調理系など、講座の充実を図った。

市民文化祭や図書館で、受講者が講座で学んだ作品を展示し、成果発表の機会を作るとともに、市民の方に生涯学習への興味関心を高める機会を作ることができた。

また、平成29年度講座開設にあたり、指導講師の登録制を昨年度に引き続き実施し、教室運営についての創意工夫の提案をいただき、選定の参考にした。

- 生涯学習講座作品展(会場:市民文化会館/期間:平成28年11月3日~11月4日)
- 生涯学習成果発表会(会場:市立図書館 /期間:平成29年2月23日~3月7日)

〇公民館数:21公民館

地区の分館において各分館主事が中心となり地域のニーズにあった活動を推進している。健康体操・気功などの健康作り、フラダンスや手芸・囲碁等のサークル活動など地域の活動拠点として、地域住民のコミュニティ活動や生涯学習活動を推進した。

また、本浦分館のシャッター設置工事や岩倉分館の屋根修理工事など、公民館施設の適正な維持管理を努めた。

〇成人式

新成人14名で実行委員会を組織し、未来へ向かって明るい希望を持つことを表す言葉として、開催テーマ『志~思い出とまちの誇りを胸に希望あふれる未来へ~』を掲げ新成人自らの手で成人式を開催した。企画段階から当日の運営を実行委員会委員が行い、若者の自主性を引き出し、新成人の新しい門出を祝福することができた。なお、最後の第5回実行委員会では、市議会のTOBAミライトークと連携し、実行委員会委員と市議会議員が鳥羽の未来を考え、意見交換を行う場を作った。

・(平成29年1月7日開催/参加者数:183人・新成人191人)

〇鳥羽市マリン文学賞の一環として県内の小学生(5・6年生)・中学生を対象に海の香りのする詩を募集し、作品の中から大賞・伊良子清白賞・入賞・奨励賞の選考を行った。また、市民文化祭において、市内小中学校の大賞受賞者を表彰し、作品の朗読を行い、入賞作品詩集を作成し、その栄誉を称えた。また、大正大学出版会発行の月刊誌12月号「地域人第16号」において、全国のふるさと創生1億円の活用検証記事において、全国8自治体のひとつとして紹介された。

海の香りのする詩応募作品:総数939点

(小学生の部: 291点、中学生の部: 648点)

〇人材育成講座「地球塾」では、伊勢志摩サミットの開催を背景に「世界に誇るTOBAの魅力」をテーマとして、鳥羽が世界に誇る「真珠」「鳥羽城」「海女」を中心とした地域資源を再認識し、発信していくため、講座(5回)やフィールドワーク(4回)を実施した。今年度の塾生の特徴として鳥羽高校の地域研究サークル「とばっこくらぶ」の現役学生が入塾した。開講式での市長による伊勢志摩サミットでの振り返りからはじまり、鳥羽藩主と鳥羽城跡の変遷、海の博物館での見学を含めた海女に関する講演、松月館長によるエトランゼ(他郷人)の見た鳥羽、最後には塾生でもある鳥羽高校教諭や生徒による取り組みの紹介に関する講座を開催した。また、今年度はフィールドワークによる地域の魅力や人に触れるという点にも重点を置き、年度末には鳥羽高校の生徒による観光客への観光案内の実践を行うなど、学習した成果を発揮する場を意識し、地球塾の運営を行った。鳥羽高校の生徒の取り組みに対し、テレビ局などメディアの取材も多くあった。

地球塾の特別講座として、市内小学校や高校において、郷土学習出前講座を開催した。

- ・地球塾講座 全9回(講座5回、フィールドワーク4回)/参加者数:160名
- ・郷土学習出前講座 加茂小学校6年生/30名/九鬼嘉隆について 加茂小学校4年生/24名/御木本幸吉について 安楽島小学校4年生/38名/御木本幸吉について

安栄島小学校4年生/30名/御木本辛吉について 弘道小学校3,4年生/29名/御木本幸吉について 鏡浦小学校3,4年生/10名/御木本幸吉について ○社会教育団体の活動に対して補助金を交付し、社会教育団体等の育成に努めた。(市文化協会、市小中学校PTA連合会、市婦人会連絡協議会、市青少年育成市民会議、鳥羽恐竜研究振興会、郷土史会)

生涯学習講座では、学ぶ喜びを知るきっかけづくりの場として、多様な市民ニーズを応えられるよう様々な講座を企画している。新規講座の企画や昨年度からの人気講座である地元企業と高校が連携した「鳥羽国際ホテルのシェフに学ぶ家庭でできるフランス料理」、夏休みの親子体験講座・出前出張講座など合計29種類の講座を開講した。

色々な世代の方々が交流し、自主的に学べる環境づくりに取り組み、 生涯学習活動の推進を図った。

В

② 生涯学習の推進(放課後子どもプラン)

[目標]

● 放課後子ども教室は、子どもたちに文化活動・スポーツ・地域住民との交流活動等の様々な体験活動を提供することにより、地域社会全体で子どもたちを見守る意識を高め、心豊かで健やかに子どもたちが育まれる環境づくりを推進する。

「取組の概要]

〇子どもたちの安心で安全な放課後の居場所(活動拠点)づくりとして、放課 後子ども教室の運営方法や今後の行動計画について運営委員会において協議 を行った。

〇放課後子ども教室では、様々な活動を異学年の子どもたちが協力し合って一緒に体験することや、地域の大人との交流により豊かな心を育む場として学校の空き教室・体育館等を利用し様々な体験活動を安楽島小学校と加茂小学校で実施した。

〇安楽島小学校区では放課後児童クラブの職員と一緒に活動する機会を持ち相 互に連携体制を取りながら事業を行った。

- ・かもっこ放課後子ども教室(回数17回/参加者数(延べ)628人/登録者数 88人)
- ・あらっこ放課後子ども教室(回数17回/参加者数(延べ)830人/登録者数125人)

放課後子ども教室では、地域やボランティア団体の方々の参画を得て子どもたちが様々な体験活動を行っている。学校周辺を町内会や防災ボランティアの方々と一緒に歩き防災マップを作り、またコオーディネーショントレーニングやミニバスケットボールなどのスポーツ教室、スノードーム作りなどの工作教室、クレープやバレンタインチョコ作りの料理教室など、様々な教室を企画し、

評価

В

③ 青少年の健全活動を推進

[目標]

●地域社会の中で、健やかな青少年を育てるため、青少年サポーセンターを中心に学校現場、警察および関係諸団体と連携を図り、青少年の非行防止と健全育成を目指す。

[取組の概要]

〇青少年育成指導活動として、イベントや祭りの開催時、夏季休暇中には各種団体と連携して合同街頭指導や夜間パトロールを行い、週3回は下校時に指導を行った。また、月2回程度市内教諭等と合同で、不良行為の行われやすい場所、危険箇所を重点的に巡回指導した。

〇青少年育成活動として、青少年育成市民会議や諸団体と連携し、各種事業を 行った。

- ・青少年育成市民会議と連携し、新春凧揚げ大会を開催した。(平成29年1月3日/参加者:約300人)
- スポーツ少年団等諸団体と連携し、子どもフェスティバルを開催した。(平成29年3月5日/参加者:約200人)
- ・地域では、学校、青少年育成会など関係諸団体が連携し、地域の特色ある育成 活動、安全活動を実施した。
- 〇有害環境から青少年を守るため、店舗に立入調査を実施し正常な地域環境づく りに努めた。
- 〇青少年や家庭の悩みの相談窓口として、常に相談に応じられるよう体制を整えている。
- 〇青少年サポートセンター、学校、警察等関係諸機関と連携し、青少年の健全育 成啓発を行った。
- ・「青少年非行防止活動夏季強化期間(7・8月)や「子ども・若者育成支援強化月間」(11月)に伴い、大型店での啓発物品配布や非行防止の呼び掛けを行った。
- ・青少年に関係する種々のイベントや市のイベントへの参加し、啓発活動を行った。

学校・関係団体・指導員との連携を図りながら、月例街頭指導、合同指導、啓発活動を実施するとともに、有害環境から子どもたちを守るためにコンビニエンスストア等の店舗に対し、立ち入り調査を計画的に行った。また、市内で開催される祭りや夏休み期間には、警察・学校・地域と連携し、青少年の非行防止と健

全育成の環境づくりに努め、夜間合同指導を実施した。また、南勢志摩地区の高等学校・補導センター・管轄警察で構成する南勢地区高等学校生徒指導連絡協議会に出席し、子どもたちの状況について協議・情報の共有を図った。

B

④ 文化活動の振興、文化財の保護

[目標]

●地域に密着した芸術・文化環境の育成や、市民が芸能・文化に触れることのできる環境づくりの推進を目指すとともに、文化財・伝統文化といった歴史・文化遺産を後世に伝え残していくために、文化財保護及び調査に努め文化財の保存及び郷土学習の推進を図る。

[取組の概要]

【文化活動の振興】

- 〇鳥羽市文化協会と連携し、文化祭を開催した。 (平成29年11月3日、4日/参加人数:約1,000人)
- 〇社会教育団体 6 団体(市婦連・市 P 連・青少年育成市民会議・恐竜振興会・市 文化協会・郷土史会)の活動に対し補助を行った。
- 〇伝統文化継承活動の一環として、鳥羽市能楽保存会に活動助成を行なった。

【文化財の保護】

- 〇文化財の保護・整備
- ・賀多神社能舞台解体・搬出作業(8月5日・9月3日・9月14日)
- 鳥羽城跡発掘調査遺物整理
- ・「鳥羽・志摩の海女漁の技術」が国の重要無形民俗文化財に指定される。 (平成29年3月3日)

〇歴史文化の発掘・調査

- 鳥羽城跡発掘調査報告書刊行(400部)
- 志摩文化財保護委員総会・研修会(平成28年7月20日)
- 島羽城跡試掘調査(平成28年8月9日)
- ・鳥羽藩主資料調査を実施。(平成28年8月24~25日・東京)
- · 鳥羽城跡出土陶器調査指導(平成28年9月5日愛知学院大学)

〇委託事業

登録旧鳥羽小学校校舎文化財建造物等公開活用地域活性化事業

(国庫補助事業)

旧鳥羽小学校校舎実施設計業務

旧鳥羽小学校校舎実施設計にかかる技術指導業務

- 海女文化を活用した漁業・観光・教育による活性化構想計画策定業務 (地方創生加速化交付金)
- ・鳥羽大庄屋かどやの指定管理を、かどや保存会に委託。(入館者6,497人)

〇文化財環境の整備

- ・指定文化財 5 件の整備事業補助を行った。 (賀多神社、坂手アヤメ池周辺、九鬼嘉隆胴塚・首塚周辺、桃取ヤマトタチバナ、神島祭祀遺物)
- ・文化財防火デーでは消防本部と連携し、立入検査を行った。 (平成29年1月24日~26日)
- 神島八代神社文化財収蔵庫の温湿度調査(通年)
- ○文化財調査委員会を実施した。(平成28年6月22日)
- 〇旧鳥羽小学校講演会(講師 川島智生氏)(平成28年9月27日 54名)
- 〇文化財案内板の整備 (答志の潮音寺の聖観音)

〇歴史文化ガイドセンター事業

常設展示のほかに企画展を開催し、本市の歴史・文化を市民及び観光客に広く紹介するよう努めた。28年度は友好都市交流事業として、三田九鬼家の資料を三田市の協力のもと、展覧会を開催した。

・企画展「三田九鬼家の歴史遺産展」(平成28年10月8日~11月8日 420人)

国庫補助事業として国登録有形文化財の旧鳥羽小学校校舎の耐震改修工事の 実施設計を専門家による技術指導を得ながら行った。

市内の文化財啓発事業としては、旧鳥羽小学校の講演会・見学会や、企画展「三田九鬼家の歴史遺産展」の開催などを行った。

また、平成23~25年度に実施した鳥羽城跡の発掘調査成果をまとめた報告書を 刊行し、全国の文化財部署や大学図書館等に配布した。

評価

⑤ 図書館事業の推進

「目標]

●こどもからお年寄、身体に障がいのある方やどこの地域に住んでいる人でも同じように図書館サービスを受け入れることができる体制を整えるとともに、「利用者のための図書館」にしていくため、読書普及活動の進展・育成を図り、文化活動の援助・情報提供に努める。

[取組の概要]

- 〇図書館年間利用者数: 83,346 人/年間貸出冊数: 103,691 冊
- 〇インターネット予約件数:1,250件/WEB検索アクセス数:314,587件
- ○4月~9月の火・水曜日の時間延長を行った。
- 〇毎月テーマを決めて「おすすめ本コーナー」を設置し、読書の推進・啓発を行った。
- 〇「子ども読書活動推進計画」事業
- ・市内小中学校出張ブックトークを実施した。 (小学校9校61回、中学校5校15回)
- ・読書週間の展示に併せておすすめ本のリストを作成し、来館者へ配布した。 (4月、7月、10月)
- ・おすすめ絵本リストを年4回作成し、健康福祉課へ乳幼児健診時に保護者への 配布を依頼し、赤ちゃん絵本の情報提供をした。

(配布依頼した健診:1歳6か月健康診査、2歳歯科検診、3歳児健康診査)

〇ストーリーテリング講習会を開催した。

(開催日:平成28年5月31日、6月7日、6月14日/講師:おはなしの会ミルキーウェイ代表 鬼藤千代子氏)

〇「絵本と子育て」教室を開催した。

(開催日:平成28年9月23日/講師:元かもめ幼稚園園長 矢野政子氏)

〇「古文書解読いろは」講座を開催した。

(開催日:平成28年11月18日、12月16日、平成29年1月20日、2月17日、 3月17日/講師:太田光俊氏)

○図書館職員による「ブックトーク」を行った。

(実施日:毎月1回程度第3土曜日/場所:図書館)

〇読み聞かせボランティア (稲穂会)による「絵本と紙芝居の読み聞かせ」 を行った。

(実施日:毎月2回第2土曜日、第4日曜日/場所:図書館)

〇ボランティア(おはなしの会ミルキーウェイ)と図書館職員による「おはなし会」(ストーリーテリング)を行った。

(実施日:毎月1回第1土曜日/場所:図書館)

〇おもにボランティア(矢野政子氏)による「赤ちゃん絵本の読み聞かせ」を行った。

(実施日:毎月1回第4金曜日/場所:図書館)

〇ブックスタート事業を実施し、7ヵ月児健康相談時(健康福祉課主催)に乳児とその保護者を対象に、ボランティアと職員で絵本の意義の説明等を行った。

(実施日:毎月1回第4水曜日/場所:健康福祉センターひだまり)

〇とばっこカードによるプラス10冊貸出を実施した。

○夏休み行事

・夏休み小学生おはなし会

(開催日:平成28年7月21日/講師:津おはなしの会マザーグース)

おりがみ教室「はらぺこあおむしを折ろう!」

(開催日:平成28年7月29日/講師:図書館職員)

・工作教室「切り紙で花かざりを作ろう!」

(開催日:平成28年7月26日/講師:図書館職員)

・手づくり絵本講習会

(開催日:平成28年8月2日、5日/講師:図書館職員)

- 〇「夏休み!読書をしよう!!」展でテーマ、学年別に図書を展示し、それぞれ の推薦図書リストを作成した。
- 〇工作&おりがみ教室「ツリーとサンタをつくろう!」 (開催日:平成28年11月27日/講師:図書館職員)

○冬休みおはなし会

(開催日:平成28年12月27日/おはなしの会ミルキーウェイ)

〇春休みおはなし会

(開催日:平成29年3月29日/おはなしの会ミルキーウェイ)

〇大人のためのおはなし会

(開催日:平成29年2月28日/講師:下澤いづみ氏)

講師を招き、ボランティア(おはなしの会ミルキーウェイ)も参加して大人対象のおはなし会を開催した。

- 〇図書館だより「ブックフレンド」を発行した。 (毎月発行)
- 〇「鳥羽市立図書館ベストリーダー」を発行した。(季刊)
- 〇文化講座(絵画・書道・短歌・俳句・詩)の開催
- ·俳句講座(実施日:毎月1回第1木曜日/講師:増田河郎子氏·平賀節代氏)
- •書道講座(実施日:毎月1回第2木曜日/講師:髙尾紫岳氏)
- · 絵画講座(実施日:毎月1回第4木曜日/講師:野村昭輝氏)
- ・短歌講座(実施日:毎月1回第4木曜日/講師:喜多さかえ氏)

〇本のリサイクルフェア (年2回)

・図書館で保管期限が過ぎた雑誌類や個人等から寄付されて、図書館の蔵書と重複している書籍類のリサイクルを行った。

(実施期間:5月31日~6月7日、10月13日~10月20日)

○資料展・展覧会(12回)

・「知る、行く、つながる。熊本・大分と東北展」や『原爆と人間展』などを 開催した。

〇職業体験学習・社会見学の受入

・職業体験:中学校5校・9名 延べ10日間

・社会見学:2校30名

図書館において、例年実施している読み聞かせや、ブックスタート事業などの活動は継続して実施できた。「第2次鳥羽市子ども読書活動推進計画」に基づき、市内小・中学校において職員がブックトークの実施や団体貸し出しの紹介を行った。

また、おすすめ絵本リストを年4回作成し、健康福祉課へ乳幼児検診時に保護者への配布を依頼し、赤ちゃん絵本の状況提供をした。

今後も事業の継続活動を基本に、市民のニーズに応えた新しい文化の創造と情報提供に努め、人材の育成につながる事業の充実を図りたい。

評価

⑥ 人権教育の推進

[目標]

●鳥羽市人権施策基本方針の基本精神のもと、社会教育活動を通じて、 人権問題の本質を正しく認識し、その解決に向けて努力する市民の育成に 努める。

「取組の概要」

- 〇市民の人権意識の高揚を図るため人権推進事業を行った。
- ・鳥羽市人権教育研究協議会や行政・学校・地域団体が連携し、講演会や学習 会を実施した。
- ・「広報とば」に人権啓発コラムを市民課と協働で掲載し、市民の人権意識の向上を図った。

〇人権教育推進事業の実施

- ・各学校等や関係団体と連携して、LGBTの正しい理解や認識についての講演会をはじめ、人権教育に関する研修会などを実施し、人権意識の高揚を図り、人材育成に努めた。(開催数:12回/延べ参加人数:1,106人)
- 〇人権教育の研究、研修への取り組み
- ・鳥羽市人権教育研究協議会等の活動計画に基づき、研究・実践を深めた。

市人権教育研究協議会や学校関係・地域団体とも連携しながら、LGBT の正しい理解や認識についての講演会やスマホの危険性についての研修会など小・中・幼・保育所等を中心に児童・保護者・地域が共に人権について学ぶ学習会や講演会、講座、劇鑑賞等を開催し、人権教育を推進した。

また、小中学校人権フォーラムの開催や鳥羽市人権教育研究協議会実践交流会を関係機関と取り組んだ。

評価

- (2)スポーツ活動の推進
 - ①生涯スポーツの推進

[目標]

●市体育協会、市スポーツ推進委員の活動を支援し、生涯を通じて運動に 親しむ意識や能力の養成など、市民一人ひとりが手軽に楽しめるスポー ツの振興のための環境および体制づくりの推進に努める。

[取組の概要]

〇市内小学校、鳥羽志摩中学校相撲大会を開催した。

(小学校···平成28年6月25日/参加選手:114人中学校···平成28年6月11日/参加選手:75人)

- 〇各種スポーツ教室を実施した。
 - ・障がい者スポーツ教室を各種団体及びスポーツ推進委員の協力により開催 した。

(開催日:毎月第3木曜日(7月・8月除く)/延べ参加者数208人)

・泳げない、泳ぎが不得意な市内児童(小学3年生以上)を対象に、わくわく 水泳教室を開催し、水に慣れたり、クロールの泳ぎ方を身につけたりし、水 の事故防止及び生命を守るための泳力の習得に努めた。

(開催日:平成28年8月3日、4日、5日/延べ参加者数71人

〇市民大運動会を鳥羽市体育協会及び鳥羽市スポーツ推進委員協議会との共催により開催した。当日は雨天のため体育館での実施となったため、種目については、小学校や町内会対抗リレーは「6人7脚走」に変更、小中学生の長距離種目は中止にするなど変更した。また、運営面では限られたスペースを工夫し、「する人(参加者)、みる人(応援者)、支える人(係員)」が一体となり、スポーツに親しみ健康増進と地域交流を図った。

(平成28年10月8日/参加者:1,300人)

〇市民体育大会を鳥羽市、鳥羽市教育委員会、鳥羽市体育協会の共同主催により開催した。各競技の運営については、鳥羽市体育協会加盟団体の主管により 実施した。市民が大会へ向けて練習することで、体力向上と健康増進を図ると ともに、日頃のスポーツ活動の成果を発揮する場を提供した。

(平成28年10月16日~平成28年12月26日/種目数:17種目/延べ参加者数840名)

〇「TOBAウォーク2016 in青峯山」を松尾工業団地から青峯山正福寺まで往復約10 kmのコースで開催し、往路ゴール地点の青峯山正福寺では、鳥羽市指定文化財にも指定されている「大門」等の説明も行い、市民へ地域資源を活用したウォーキングの推進と鳥羽の歴史・文化に触れる場を提供するとともに市民の健康増進を図った。また、鳥羽市体育協会や鳥羽市スポーツ推進委員協議会などの各種団体と連携し、円滑な運営を行った。

(平成28年11月26日/参加者:202人)

〇第10回美し国三重市町対抗駅伝に選手団を結成し参加した。本事業では鳥羽市陸上競技協会の協力により、大会当日までに志摩市との合同練習会や試走等を毎週末に行い、チームの連帯感を高めるとともに、ひとりひとりが目標を持ち大会に挑んだ。また、ジュニア世代の育成・強化に努めた。

(平成28年2月19日/参加29市町中16位、タイム2時間30分20秒)

(練習会:10回(平成28年12月4日~平成29年2月12日の間))

〇鳥羽市子どもフェスティバルを鳥羽市スポーツ少年団や鳥羽市青少年育成市 民会議等の各種団体との共催により実施した。

子どもたちがスポーツやレクレーションゲームの楽しさと喜びを体験し、他校または異学年の友達との交流を通じて、自主性や協調性、豊かな人間性の育成を図った。

(平成29年3月5日/参加者:約200人)

〇各種大会で優秀な成績を収めた個人または団体に対して、鳥羽市スポーツ優秀賞の表彰を鳥羽市民体育大会総合開会式で行い、その功績を讃えるとともに、広報とば(1月1日号)でも紹介し市民に周知すると同時に、選手の意識の高揚に努めた。また、東海大会以上の出場者(チーム)及び全国大会上位入賞者は市長の激励会及び報告会を行い、選手の大会及び今後の活動への意識高揚に努めた。

(平成28年11月13日/表彰者数:団体優秀賞2団体、個人優秀賞24名)

〇コオーディネーショントレーニングは、一般的に運動神経や運動センス等と言われる「運動の器用さ」を高めるトレーニングの一つですが、運動の器用さそのものを獲得するだけでなく、その土台となる「運動学習能力(学ぶ力)」を得ることを最大の目的としており、これを提供できるスポーツ指導者の育成のため、学校体育モデル授業や講習会(学ぶ会)を開催した。また、資格取得のため「ブロンズライセンスセミナー」と同時に、すでに資格を取得された方の「フォローアップ研修」を開催し指導者の育成に努めた。

資格を取得された方は、各現場でも実践し「姿勢に気を付けるようになった。」、「難しい動きに挑戦したり、運動を進んでやるようになった。」等の効果も出て きた。

(学校体育モデル授業:平成28年6月17日/参加者39名)

かもめ幼稚園、安楽島保育所、安楽島小学校で実施

(指導者講習会(学ぶ会):平成28年6月18日/参加者19名

(親子体験会:平成28年6月18日/参加者37名(大人17名、子ども20名)

(ブロンズライセンスセミナー兼フォローアップ研修

: 平成28年8月20日·21日/参加者17名)

- 〇三田市・鳥羽市友好都市交流事業(スポーツ交流)を開催した。
- ・鳥羽市スポーツ少年団の協力により、鳥羽市から三田市へ出向き、両市のバレ
- ーボール少年団同士の合同練習や交流試合を行い、バレーボールを通して親睦を 深めることができた。

(平成28年11月6日/会場:三田市城山公園体育館/鳥羽市参加者22名·三田市参加者49名)

- 〇補助金を交付し、団体育成に努めた。 (市体育協会、市スポーツ少年団、市武道振興会、長岡スポーツ文化クラブ)
- 〇補助金を交付し、小中学生のスポーツ大会派遣を支援した。 (市小学校体育研究会、市小学校校長会、市中学校体育連盟)

〇鳥羽市スポーツ推進委員協議会を開催し、地域におけるスポーツ推進のため、 事業計画及び各種スポーツ事業等への企画立案のため内容について協議をし、スポーツコーディネーターとしての役割に努めた。(協議会開催数:5回)

生涯スポーツ活動では、鳥羽市体育協会や鳥羽市スポーツ推進委員協議会等の 各種スポーツ団体との連携・協力により、継続的に開催しているスポーツイベン ト等では参加者に満足いただけるような企画に取り組むとともに、円滑な運営に 心がけ、市民の増進を図った。

市民大運動会では、雨天のため市民体育館での実施となったが、事前から屋内・屋外を想定して準備を行ったため、当日は円滑に運営ができ、限られたスペースを有効利用し、会場全体が一体となりスポーツに親しみ、健康増進と地域交流を図った。

コオーディネーショントレーニングでは、指導者を対象とした講習会(学ぶ会) や資格取得のための「ブロンズライセンスセミナーを開催し、指導者の育成を図った。また、講師による、保育現場での実践や学校体育でのモデル授業等を行い、 コオーディネーショントレーニングの導入方法について、実践と講義を交えて普 及推進を図り、子ども達にさまざまな運動経験の機会を提供できた。

TOBAウォークでは、松尾工業団地から青峯山正福寺まで往復約10kmのコースで開催し、市民へ地域資源を活用したウォーキングの推進と鳥羽の歴史・文化に触れる場を提供するとともに市民の健康増進を図った。

スポーツ団体においては、フェンシング及びレスリング競技で国際大会への出場並びに全国大会で入賞するなど、平成33年に開催される三重国体にむけてジュニア選手の育成が図らている。また、両競技においては、ジュニア世代からの長期的な視野に立った育成の成果もあり、シニア世代の各種国際大会でも優勝・入賞するなど、鳥羽市出身の選手が世界でも活躍している。

評価

②スポーツ施設の充実・管理

[目標]

●鳥羽市運動施設の充実と適正な維持管理に努め、市民がいつでも、 どこでも、だれとでもスポーツのできる場所を提供するなど、施設の 活用に努める。

「取組の概要]

- 〇鳥羽市運動施設の管理を指定管理者として、公益財団法人鳥羽市武道振興会 に委託した。
 - (委託施設:市民体育館・野球場・相撲場・庭球場・多目的グラウンド・水泳 プール計6施設/年間利用者数:40,314人)
 - (指定管理者自主事業:バドミントン教室、バスケットボール教室、ヨガ教室 キッズ体操教室、ナイターグラウンドゴルフ大会を実施/延べ参加者532人)
 - (利用促進事業: 219の大学、高校、企業、団体等へ施設案内と鳥羽市のガイド ブックを配布/23団体1,509人が利用)
- 〇学校体育施設(屋内運動場及びグランド)を登録団体に開放した。

(開放校数:10校/年間利用者数:27,470人)

中央公園運動施設は管理運営を(公財)鳥羽市武道振興会に委託し、施設の 効率的な運営と利用者に対するサービスの向上に努めた。

<u>自主事業では、各世代に合わせたスポーツ教室を開催し、市民の健康増進と</u>スポーツに親しむ機会を提供した。

施設利用者促進の取り組みでは、新たな利用団体を増加させるために、継続的に近隣の大学等施設案内を行なうとともに、鳥羽市の観光パンフレットも同封し、施設利用と市内への宿泊の促進を図った。

環境整備では、草刈り等の環境美化に取り組むとともに、施設全体が老朽化しているため、緊急性を考慮して修繕を行い施設整備に努めた。

評価

(3) その他

[目標]

●その他生涯学習に関する事務、事業の積極的な推進に努める。

[取組の概要]

〇鳥羽市社会教育委員会を開催し、社会教育行政方針や生涯学習・公民館・図書館・歴史ガイドセンターの各主要事業についての事業計画の審議、事業の経過報告を行った。

(委員会開催回数:2回)

外部有識者または専門性の高い有識者の意見を反映し、地域全体で取り組む 社会教育の普及振興を進めていきたい。

評価

3 管理・執行を教育長に委任する事務に対する意見

B 生涯学習に関すること

一委員A-

(1) 社会教育の推進、(2) スポーツ活動の推進

- ・文化活動やスポーツ活動・図書館事業の推進について、過去2年間取り上げてきましたが、鳥羽市の人口減(児童・生徒数の減少も含めて)という状況の中で、いろいろな諸事業を展開して、少しでも地域の活性化になればという思いは、十分にくみ取ることができました。今後も様々な要望があると思われますが、地域の文化活動やスポーツ活動の発信元だという立ち位置で、これからも情報発信していただきたいと思います。
- ・スポーツ施設の充実に関して、昨年度も記載しましたが、既存の体育施設は老朽化が 進み、施設そのものの古さが目立っています。ようやく改修も始まるようですが、利 用促進の立場からも計画的な整備をお願いします。

- 委員 B -

(1) 社会教育の推進-①生涯学習の推進(公民館事業)

- ・生涯学習講座について、音楽や工作、調理や各種体操など様々なジャンルがあり、講座の充実度が高いことがうかがえる。離島に関しては出張出前講座の開催もあり、夜間、本土での活動が難しいだけに、どんどん活用されれば良いと思う。また、希望講座の確認なども行ない、参加意欲がわく対応となっているところが良いと思った。今後、高齢化に伴い、自ら出向くことが難しい市民のためにも、どんどん出前講座が増えればいいと思った。
- ・成人式について、新成人の実行委員にて、企画から当日の運営まで自ら手掛け、昨年 度よりも参加率が高いことから、自主性の成果が表れたように思う。この体験を鳥羽 のまちづくりに生かしていただきたいと願うところです。
- ・人材育成講座『地球塾』について、講座回数が昨年より4回多いが、参加者数が22 名減少している。郷土学習出前講座は昨年より2回も多く、だんだん活動的になって きているようだが、まだ周知されていないのではないかと懸念を持つ。鳥羽の魅力を 発信していくため、講座の開催日時などの工夫や広告等に力を入れていただきたいと 思った。

(1) 社会教育の推進―②生涯学習の推進(放課後子どもプラン)

・放課後子ども教室について、コーディネーターの人材不足のため、現在も 2 校でしか 実施されておらず、早急な人材確保に努めていただきたい。若干、時間が空いている だろうシニア世代の方々に、積極的にアプローチしていただけたらと思う。保護者の 中にも、1~2回ならお手伝いできるという方もみえると思うので、増室に向けて推 進していただきたいと思う。

(1) 社会教育の推進-3青少年の健全活動を推進

- ・防犯、非行等への指導やパトロールは、各種関係者と連携が取れた状況で活動されて おり、重大な事案も発生しておらず安心できるところ。
- ・子どもフェスティバルについて、スポーツやゲームに参加し、他校の子どもたちとの 交流の場になっているので、今後も続けていただきたい。

(1) 社会教育の推進―④文化活動の振興、文化財の保護

- ・文化活動について、近年子どもたちによる狂言の発表も定着しており、興味を持つ人 も増えたのではないかと思われることから、鳥羽の文化として、今後も発表の場が増 えることを期待したい。
- ・文化財の保護整備について、もっと観光名所的になるよう、看板や案内を整備し、市 内外問わず情報発信していただきたいと思う。

(1) 社会教育の推進一⑤図書館事業の推進

- ・市内小中学校出張ブックトークについて、我が子はいつも楽しみにしており、「こんな本を読んでもらって面白かったよ」などと言って、より一層本に興味を示します。 読書推進に大きく貢献されていると思いますので、今後も継続していただきたい。
- ・ブックスタート事業やおすすめ絵本リストも、育児で忙しい保護者にとって、幼児期から読書に関わりを持たせるいいきっかけとなっていると思う。

(1) 社会教育の推進―⑥人権教育の推進

・人権教育推進事業の実施について、開催数が12回と月1回ほどのペースで開かれて おり、密に研修等行なわれているように思う。心の教育は奥深いものであり、その教 育に携わる方の育成を、今後も力を入れていただきたいと思う。

(2) スポーツ活動の推進―①生涯スポーツの推進

・国技である相撲大会や、各種スポーツ教室、市民運動会など、様々な企画・実施にあたり、市民のスポーツ推進に努めていると思う。開催までの準備は大変だろうと推測できるし、当日たくさんの支援者の方がいることに有り難く思う。

(2)スポーツ活動の推進―②スポーツ施設の充実・管理

- ・各施設の大会開催予定や使用予定のスケジュールなど、月間くらいで広報とば等に掲載してはどうかと思う。観る機会が増えれば、スポーツ推進にも繋がらないだろうか と思う。
- ・市外からの利用者にとっては、駐車場が分かりづらかったり、駐車場が少なかったり するのではと思う。例えば、体育館おいては、満車になった場合の案内がないのでは …。各大会など、その都度、案内係も必要ではあるかと思うが、看板などでの案内が 設置されてもいいと思う。

一委員C-

(1) 社会教育の推進―①生涯学習の推進(公民館事業)

- ・生涯学習講座について、講座数 19 (H26) →25 (H27) →29 (H28)。 参加人数 1,359 (H26) →1,369 (H27) →1,638 (H28)。 講座数が増えるとともに、のべ参加人数も増加している点は、取り組みの成果として評価できる。
- ・公民館については、近年、その社会的役割が増大しており、全国的には新たな仕組みづくりも進んでいる。また、鳥羽市は環境立地を踏まえて、「風水害等避難所」に指定されている公民館もある。教育委員会の防災事業と各公民館の連携も期待したい。
- ・人材育成講座「地球塾」は、時機を得た取り組みが継続されており評価できる。全国的な地元学の取り組みにも匹敵すると考える。H28 年度より講座に加えてフィールドワークを組み入れることでより内容の充実をはかられたと推察するが、参加者数は122 (H26) →182 (H27) →160 (H28) と減少している。この点の分析も説明を求めたい。例えば講座が充実したことで、参加者総数は減ったものの、意欲の高い参加者が増えたのであればそのような事業効果を教えていただきたい。
- ・その一方で鳥羽市内では、ガイドボランティアなど郷土の魅力を学び発信する主体者 の減少が進んでいるとも聞く。これまで取り組んでこられた市民と、地球塾などで新 たに育成した人材とのつなぎなどにも期待したい。

(1) 社会教育の推進―②生涯学習の推進(放課後子どもプラン)

- ・安楽島小学校区での放課後子ども教室と、放課後児童クラブの連携は、制度の縦割り を超えた積極的な取り組みとして評価できる。今後、放課後子ども総合プランなどへ の展開も含めて関係者による方向性の共有が望ましいのではないか。
- ・防災ボランティアとのマップづくりなど魅力的な活動は今後も期待したい。防災のみならず、防犯関係(防犯ボランティア、警察との連携による「地域安全マップ」など) も良い交流が生みだせるかもしれない。

(1) 社会教育の推進―④文化活動の振興、文化財の保護

- ・団体助成について、文化活動の振興として大切な支援と理解できる。その一方で、団体の自立的な運営に向けた支援も充実していただき、より多くの団体による活動が展開することを期待したい。H26 実績報告書の意見で指摘されているように「整理・体系化」が必要と思われるし、教育委員会で事業化して担うべき文化活動と、団体助成をして担っていただく文化活動との峻別が求められる。
- ・歴史文化ガイドセンター事業について、利用者の減少や、ボランティアガイドの減少 が課題になっていると聞くが「郷土学習の推進」などを担う重要な事業かと考える。 同事業のビジョンなどを広く共有しながら課題解決を目指していただきたい。

(1) 社会教育の推進一⑤図書館事業の推進

- ・図書館年間利用者数は、86,579(H26)→84,999(H27)→83,346(H28)。 年間貸出冊数は、104,972(H26)→103,725(H27)→103,691(H28)。 インターネット予約件数は、946(H26)→928(H27)→1,250(H28)。 WEB 検索アクセス数は、422,553(H26)→168,194(H27)→314,587(H28)。
 - 「第2次鳥羽市子ども読書活動推進計画」の策定による成果目標の設定などは評価できる。その一方で図書館利用者数については、減少傾向に歯止めがかかっていない。 計画の成果目標の進捗や、精査を含めた記載が求められる。
- ・図書館については、全国的に地域交流資源・拠点としての役割が再考されており、多くの先行優良事例が出てきている。その中でキーになるのは図書館司書(ライブラリアン)の資質向上である。報告書では、利用者への各種事業実施について理解をできるものの、担い手の育成研修についても積極的に取り組んでいただきたい。

(2) スポーツ活動の推進-①生涯スポーツの推進

- ・掲げられた目標に対して、幅広い種目や多様な大会が開催されている点は評価できる。
- ・教育委員会会議録でも触れられている教職員の業務負担の改善については、部活動が キーワードになっており、児童生徒の課外活動環境を損なうことなく、業務負担の軽 減をはかるためには、市内外の生涯スポーツ事業との連携も検討課題の一つと考える。 社会教育と学校教育の枠を超えた取り組みの可能性についても検討いただくことが、 来るべき平成33年の三重国体に向けても相乗効果を期待できると考える。

(2)スポーツ活動の推進-②スポーツ施設の充実・管理

- ・委託施設年間利用者数は、44,910 (H26) \rightarrow 42,414 (H27) \rightarrow 40,314 (H28) と減少している。「施設の効率的な運営」を目的に委託していることを踏まえると、減少理由の分析と記載を求めたい。
- ・利用促進事業は、H27 年度報告より記載があり、宿泊とも直結する興味深い取り組みだが 30 団体、1,652 (H27) →23 団体、1,509 (H28) と減少している。理由の分析があると理解を深めやすい。

(3) その他

・定例の社会教育委員会議や審議会の実施記録が毎年度「その他」の項目に記載されて いるのはやや不自然に感じる。

4 点検評価報告書全体に対する意見

- 委員 A -

- ・点検評価報告書について、委員の意見集約ができた段階で一度集まって会合ができる といいと思います。
- ・教育委員会議案審議の内容についても触れていただきたい。

-委員B-

・報告内容が重複している箇所があり、説明が後に記載されている箇所があるので、まとめ方を工夫していただきたいと思った。例を挙げると、3月に開催されている子どもフェスティバルについて、報告書のP.39に掲載されています。初めは、健全育成とあるが、どういった活動をもって育成活動なのか、何を目標としているのか等、説明が欲しいと思いましたが、P.47に説明が記載されています。分類の都合上でしょうが、記載方法の工夫を期待したいです。

-委員C-

・点検・評価の取り組みは大変意義のあることと考えるが、昨年度も意見したとおり点検・評価の趣旨に対して、項目と内容に対する基準があいまいな印象を持つ。点検・評価をする項目区分が大きく、目標も抽象的であることに対して、取り組みの概要は実施記録に留まっており、個別具体的な点検・評価にまで至りにくいように思われる。各項目ともに魅力的な取り組み内容であることは間違いないものの、事業目標に対する効果と課題の分析に乏しい。従って、4段階評価を付しているものの、Bであればどの部分について「取り組みを強化」するのか、Cであれば何を「改善」するのかが外部評価委員の立場では理解しにくい。

加えて $H26 \cdot H27 \cdot H28$ 年度実績の評価結果が、全項目毎年度同じであったという事実について説明を求めたい。全く同じ評価であることを積極的に評価できなくもないが、市民には点検・評価そのものの趣旨が形骸化しているようにも受け取られないだろうか。やや厳しい言い方をすると、毎年度「B 評価」であるにもかかわらず、報告書における取り組み内容にほぼ変化が見られない項目も見受けられる。現場では、毎年度何らかの改善に努められていると思われるので、報告内容の記載を工夫し、点検・評価の充実をはかっていただけると市民の理解もより深まるのではないだろうか。例えば、事務事業評価において毎年度、事務局内で見直しをかけている評価基準を、より広く市民にも理解を得られるようにわかりやすく提供していただく工夫などを期待したい。また、「3 管理・執行を教育長に委任する事務」の「A、学校教育に関すること」「(1) 教育内容の充実」については、目標 $I \sim IV$ ごとに評価を付す方が望ましいと思われる。

なお蛇足ながら、総合計画や地方創生戦略などの施策に KPI が用いられているのは、 単純な数値目標を設定するのではなく、よりその事業への理解を深め、適切な評価基 準をステークホルダーとともに考えあうことに最大の意義があると考える。

- ・本年度の報告書に、「海の博物館」の市立化に関する点検・評価項目が見受けられなかった。教育委員会1月定例会のその他で教育委員会生涯学習課が主担当として鑑定評価などを行っている旨の説明が会議録にある。政策経営会議や市議会等での適切な意思決定がなされたと推察するが、希少な博物館であり、重要な社会教育施設であることを認識しているなかで、今後の点検・評価項目には加えることが望ましいのではないか。
- ・点検・評価の客観性を担保するためにも、点検・評価者は固定化しない方が望ましいと考える。できる限り、事業全体を網羅しようと努めるが、限られた情報に対してどうしても自分の視点が強くなるため、コメントも重複しがちである。点検・評価体制の在り方について、より良い改善へ向けたご検討をお願いしたい。